

大阪産業大学 学会報

59

テーマ AI時代における大学教育



2023



特集『AI時代における大学教育』 に寄せて

小川 和彦

大阪産業大学学会 会長(本学学長)

ACADEMIC
SOCIETY
OF
OSAKA
SANGYO
UNIVERSITY
2023

大阪産業大学学会では、論集および学会報の発行と共に、講演会の開催、研究助成を行っています。また、学生会員の皆さんに向けて、コンテスト、見学会等のイベントを開催し、見聞の場を広げていただくことを念頭に活動しています。

今年度はコロナ禍もかなり落ち着きを見せ、イベントは例年通りの開催とすることができました。本会活動の成果は、常任委員の先生方と事務局の皆さんの運営へのご協力、会員皆様の論集・会報へのご投稿および各種の行事への積極的なご参加があつてこそその賜物であり、深く感謝申し上げます。

さて、このたびの学会報の特集テーマは「AI時代における大学教育」です。ここ1-2年で急速にChat-GPTをはじめ種々のAI技術が公開され、まったくAIの知識がなくても簡単に使えてしまう時代となっています。音声データから議事録や要約を作成することはすでに企業や自治体等で行われています。また、学生の皆さんがレポート等の課題を行う際、AIに問題文を入力するだけで、それらしい答案を作成してくれます。

ただ、本特集号にご寄稿いただきました方々の論文には、AIには光と影があることが指摘されています。AIが生成してくれる回答の出来不出来ではなく、AIの利便性に依存し続けたときの行きつく先は何かという不安、あるいは社会的な問題を引き起こす恐れについて、多くの著者が記されています。

コンピュータ言語によるプログラミングなど一定のルールに従った問題に対しては、ある程度の精度をもつ回答をAIは返してくれると思います。しかしながら、一定程度の内容を持つ文章あるいは何かについて考察した文章を作成する場合、AIが作成した内容の是非は自分で判断することが必要となります。現在のAIは大量のデータから関係あるものを選び出し、それらしくつなげているだけであり、内容自体や論理的な道筋に誤謬はないか、引用した内容は誰のものか(著作権)、あるいは倫理的に許容されるのか、については不明です。

AIは強力な支援ツールであることに間違いありませんが、どのように使いこなしていくのかは、皆さん自身に依るのではないのでしょうか。本特集号の論文の中で指摘されている光と影を皆さん自身でお考えいただき、将来の発展につながる契機となればと思います。



CONTENTS [目次]

巻頭言

特集『AI時代における大学教育』に寄せて

大阪産業大学学会 会長(本学学長) 小川 和彦

令和6年度学会行事予定一覧

4

06

特集 AI時代における大学教育

AI時代における大学教育の問題点	(国際学部 国際学科)	小谷 瑞	6
AI技術を使った授業	(国際学部 国際学科)	上ノ堀皓人	7
AI時代と大学教育	(スポーツ健康学部 スポーツ健康学科)	池田 太陽	8
大学教育における			
AIの位置づけについて考える	(スポーツ健康学部 スポーツ健康学科)	岡野 沙絵	10
AI時代における大学教育	(大学院 経営・流通学研究科)	劉 燕	12
AI時代における大学教育	(大学院 経営・流通学研究科)	張 佳成	14
AI活用術を越えて大学で学ぶべきこと			
—AIのもたらす課題とAI規制—	(経済学部 国際経済学科)	本田 雅子	16
AI教育の重要性について	(デザイン工学部 環境理工学科)	岡本 穂香	18
AI時代と大学教育	(工学部 機械工学科)	土井 正好	19
AI時代の人間教育	(全学教育機構 教職教育センター)	山田 啓次	21

24

学会主催見学会

「愛知 交通産業見学会」感想文	官城 陽裕	24
鈴鹿安全運転研修を通じて	塩見 大輔	26
関西国際空港見学会に参加して	横山 拓哉	28
和歌山芸術鑑賞巡り感想	塚本 朱梨	30
淡路で学んだ自然	岡 空翔	32

36

コンテスト報告

令和5年度 企画委員長 笹岡 敬 36

コンテスト優秀賞作品

第24回「ぶんかくコンテスト」(長編部門)優秀賞作品: 後悔が先に立ったなら	(経営学部 経営学科)	北田 流空	40
---	-------------	-------	----

56

講演会報告

デザインを考える	(デザイン工学部 建築・環境デザイン学科)	岡本 楓	56
----------	-----------------------	------	----



60

留学記

イギリス留学記——SOAS China Institute
 全てが新鮮だった韓国留学
 学生生活最後のかけがえのない時間
 半年間で私が得たもの
 幸せな韓国語学留学
 私の韓国生活
 私の韓国留学生活
 朝鮮語海外研修に参加して
 海外研修レポート

門 闖 ————— 60
 横塚 春乃 ————— 64
 数元ひなた ————— 66
 中嶋 爽子 ————— 68
 船田理紗子 ————— 70
 福原まなみ ————— 72
 前田 寧々 ————— 74
 秋田 彩月 ————— 76
 下川床政巳 ————— 78

82

学術研究書出版助成本の概要

『マイノリティ・ライツ—国際規準と日本の課題(仮)』

窪 誠 ————— 82

86

学会報告

令和5年度 年次報告	令和5年度 常任委員長	村田 好哉 ————— 86
令和5年度 学会活動報告		————— 87
令和4年度 学会会計報告	令和4年度 財務委員長	塩見 剛一 ————— 90

編集後記

令和5年度 編集委員長 佐藤 彰彦

令和6年度学会行事予定一覧

EVENT INFORMATION

4月	学会報配付 見学会実施予定ポスター掲示	新入生・在学生に配付 (学内各所にも置いています)
7月	前期見学会参加受付	各学部掲示板、学内各所、学会webサイト、 Portal-OSUで案内
夏期休業期間中	各種見学会開催予定(3回)	
9月	後期見学会参加受付 学会コンテスト募集開始	各学部掲示板、学内各所、学会webサイト、 Portal-OSUで案内
10月	学会コンテスト募集締切・書類審査 ※優秀な作品は学会報に掲載されることがあります 学術講演会	
11月	学会コンテスト最終審査 各種見学会開催予定(2回)	
※適時	後援事業	

※見学会、講演会等の学会企画事業については、適時、学会webサイトでもご案内します。

※コンテストの応募内容や詳しい情報は、学会webサイトや学内掲示のポスター等でご確認ください。

※各見学会は、募集人数に制限があります。詳しい内容につきましては学会webサイトやポスター等でご確認ください。

学会公式webサイト <https://as-osu.jp/>



大阪産業大学学会とは

「大阪産業大学学会」は、昭和39年(1964年)に設立された学術研究団体です。

本会は本学における学術・研究・教育の発展および普及に寄与し、あわせて学会会員の研究助成等を図ることを目的としています。これらの目的を遂行するため、「大阪産業大学論集」「大阪産業大学学会報」の発行、「学術講演会」等の講演会・研究会・シンポジウム・学外研修会の開催、教員会員だけでなく学生会員の研究教育活動の助成、海外留学の助成等の事業、さらには、主に学生会員を対象とする各種コンテストや様々の学外見学会を行っています。

〈学会に関するお問い合わせ先〉

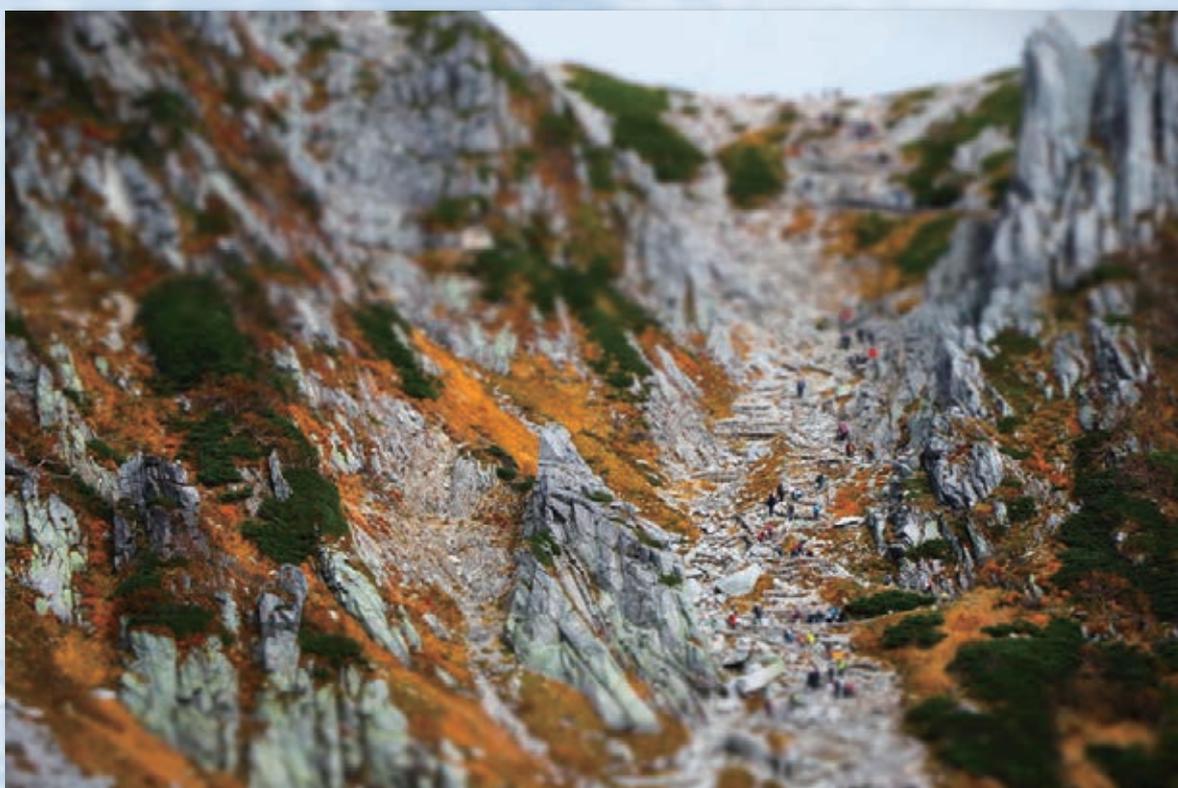
大阪産業大学学会事務局(本館8階 産業研究所事務室内) 072-875-3001(内線:2815) お気軽にご連絡ください

特集

AI時代における大学教育

特集

Special Topics



令和5年度 写真・イラストコンテスト(写真部門)奨励賞作品
『木曾駒ヶ岳の頂へ』
九里 孝行(工学部 機械工学科)

AI時代における大学教育の問題点

国際学部 国際学科 小谷 瑞

現在、私たち人間はAIと密接な関係にある。勉強においてもそうである。ChatGPTがその例であろう。文字を打つだけで情報を提示してくれる。また課題のわからないことや作成までも行ってくれる。便利なものである。しかし大きな欠点がある。まだ不完全なのだ。時々、日本語がおかしな場合もあれば、嘘の情報を書き出すこともある。AIとはインターネット上にあるありとあらゆる情報を吸収したものである。いわゆるビッグデータである。そこには嘘の情報もあるため、まだ真偽がわからないものであってもそれをさも本当のことであるかのように提案する。よくないことである。今回はAIと大学教育はどのような関係にあるのかを紹介したい。

AI時代における大学教育はメリットよりもデメリットの方が大きいと私は考える。メリットはプログラミングさえしてしまえば授業は必要がないという点。先生は授業の負担を減らすことができ、研究により一層力を入れることができる。AIには説明できない点や人の感情を読み取る能力を教員が補い生徒に対して質問に答える。AIが導入されれば、先生と二人で行う授業形式が生まれる。これは新しい授業の一つの形となると思われる。

デメリットは、だらける生徒が増えることである。今でさえ教室で講義を受けていても、うるさい人はたくさんいる。携帯を見る人も多い。つまらない授業であれば寝てしまう人もいる。そこはAIが発展しても変わらない点だと考える。先生もやる事が減るので堕落してしまう恐れもある。さらに課題で論述形式の問題が出た場合、考えるのをやめAIに頼ることで自ら考える力が失われていくことも懸念点である。これでは勉強をする意味がなく、AIによって我々人間は支配されてしまうのではないかとまで私は考えてしまう。

実際、小学校でAIが子供に勉強を教えているという事例もある。昔では考えられないことである。今これが実験的に取り組まれており、実験が成功すれば近々どの学校でも先生がAIという時代もすぐそばまで来ているのかも知れない。もし先生がAIとなれば、私には二つ懸念点がある。一つ目は声である。よく有名動画サイトやSNSなどで

AIが字幕の文字を読んでいる動画をよく目にするのだが、決まって同じトーンで喋っているのだ。つまり感情がそこにはないというふうになる。ただ読んでいるだけになってしまうのである。人は声のトーンでどこが大事なのかを判断する癖がある。一定のトーンで話している授業はつまらないし、それこそ寝る人や携帯を触る人は今よりも増えてしまうだろう。これではAIを導入する意味がない。もう一つは話である。授業では無駄話も少なからず存在する。先生の実験のエピソードや何かに例えて生徒にわかりやすいように説明をする。これがあるとないとでは授業の理解度は変わってくる。しかしAIには自我というものがまだ存在しないのである。つまりAIは教えることを教えるだけで生徒からすれば、ただ垂れ流して聞いているラジオのような感覚になり、暇だと感じる時がより多くなることもあるだろう。それらをなくすためには少なからず今は対面授業をしていた方が、授業としてより成立するのではないかと考える。

私自身今大学に通っている。私は課題を行う際にAIに頼ることもしばしばある。ある時私は「AIが便利になりすぎて困ってしまう。」と考えたのである。なぜなら、私が知りたい情報がすぐに見つかるからである。ここで一つ注意しなければいけないことは、その情報は本当に正しいかどうかかわからないということである。調べればすぐに欲しい情報が手に入るというのは、言い換えれば、自分で考える力が失われAIに考える力を搾取されてしまっているということである。人間はAIに甘えてしまって新しい何かを発見することができなくなってしまっているのではないか。これは非常に大きな問題である。AIを活用する勉強は、自分を堕落させてしまう恐れがある。AIがこれから発達するにつれて私たちも学校もよりAIを活用する機会が増える。今一度AIとの関係を見直さなければいけないのではないかと思う。

AI技術を使った授業

国際学部 国際学科 上ノ堀 皓人

今、私たちの生活、社会と共にあるのはAI技術だ。スマートフォン、パソコンあるいはタブレットなどで授業に使う資料をこれらの端末で使うだろう。教員によって使い方が異なるが、おおよその先生は使っているのではないかと考えられる。例を挙げるとすれば、学生に動画を見せるときにYouTubeから探して参照する先生もいると思われる。なぜなら、プロジェクターなどに接続するだけで簡単に共有ができるからだ。そんなAI技術の教育に私はとても賛成するし、電子機器類で授業を更に実行して欲しいと思う。ほとんどの学生はそう思うだろう。オンライン授業には主に2つの利点がある。

1つ目は、すぐに電子機器類に慣れることができることだ。私たちの社会で、勉強だけでなく日常生活にも欠かせないのが電子機器類である。多くの人々が主にスマートフォンを使って生活をしている。例えば、スマートフォンアプリで自分が欲しいものを買うことだ。誰でも簡単に買物を、その場所に行かなくてもボタンを押すだけで買うことができるのだ。もちろん高齢者もスマートフォンを使っている人はいるが、特に若者はスマートフォンを使いこなす人が多いので、このように授業でタブレットやパソコン等使った授業を行ってもすぐに慣れ、簡単に使いこなせることができることだ。

2つ目は、どこでも場所の指定なしで授業を受けることができることである。パソコンはもちろん、スマートフォンでも授業を受けることができる。ここ数年コロナ禍でオンライン授業を導入した学校は全国的に増えただろう。今までは学校に行きたくない学生も中にはいたと思うが、その人たちにとってはわざわざ行かなくても授業に参加できるのでとても良い方法と思うのだ。また暑い時や寒い時も家を出ることなく、パソコンを開いて授業に参加できるのである。

しかし、メリットだけでなく様々なデメリットも出てくるだろう。例えば、オンライン授業では相手の顔も見ないで授業を行うことによって、相手がどのような気持ちで受けているかわからないし、質問もしづらいことだ。たとえ画面越しが楽でも、相手が画面だけで理解できることは

100%確信できないと言えるだろう。人はその場で面と向かって話すので、難しいと言える。また自宅にWi-Fi設備が整っているとは限らない。パソコンがない、あるいはWi-Fiがない家もあるので授業に支障が生じると考えられるのだ。現代社会ではインターネットを使って生活することが一般的になってきているので、Wi-Fiがある家もたくさん存在するが、ない家も珍しくはないだろう。ゲームやパソコンを持っていない家庭からすれば、必要ないと言えるからだ。それに今スマートフォンはギガ使い放題もあるので、あまりWi-Fiは必要ないのだ。

また学生だけでなく教員も画面を常に見て授業を進めるので視力が低下すると断言できる。ここ最近の若者は日常生活で常に携帯を見ている人が多いので、常に電子機器を見ていることになり必ず視力が低下すると言える。

このように大学生生活でAIを使った授業をすることによって、授業の進め方が現在と180度変わるくらい便利になるが、一方で問題点も沢山出てくるだろう。この先、問題点は改善されると思うが、何年、何十年とかかるだろう。しかし、現実はこちらの問題点もある中、2019年からコロナ禍に入り多くの大学、高校などでオンライン授業をしている。最近の生活はコロナ禍よりも戻ってはきているが、完璧に戻っているとは言い切れない。だが、あと数年、私たちが社会人になるときには技術が発展し、快適な授業ができるようになっていて欲しい。

AI時代と大学教育

スポーツ健康学部 スポーツ健康学科 池田 太陽

昔、歴史の授業で「イギリスの産業革命が人々の生活を大きく変えた」という内容を学習したが、現代社会においても、それと類似した、あるいはそれ以上の影響力を持った産業や情報技術に関わる革命がたくさん起きている。現代社会に大きな影響を与えたと考えられるのが、インターネットやスマートフォンの普及である。私達のような大学生世代にとって、インターネットやスマートフォンは当たり前のものであるが、親世代や大学の先生達の世代からすると、仕事や生活が格段に便利になった現象の1つであるようだ。そのような社会の変化には、ある意味、無縁だった大学生世代であるが、今まさに社会の大きな変化を体験している最中だといえる。その1つが「人工知能(AI)」である。

2022年11月にOpenAI社がChatGPTという文章生成系AIを公開したことが大変話題となり、それを活用したサービスなどが多く展開されるようになった。例えば私達のような大学生に関連することでいえば就職活動に関するサービスである。就職活動に関しては、ChatGPTを基盤としたエントリーシート作成サービスなどがすでに展開されており、そのサービスを活用しながらエントリーシートを作成している就活生の様子がテレビニュースなどで取り上げられている姿を見た。実際に、このサービスを利用して見たところ、納得いく形のエントリーシートを自動的に作成してくれるわけではないが、書き方など参考になる点は多々あることから、効率的な就職活動ができそうである。ちょうどそのような体験をしたときに、今回の執筆テーマを頂いた。このテーマにそって考えると、AIを活用すれば、様々なことを個人の作業で完結することができることから、先述した就職活動を例に挙げると大学のキャリアセンターは必要なのか?という疑問が浮上してくる。さらには大学での授業等のさまざまな活動は本当に必要なのか? AIを活用して個人で効率的に学習した方が合理的なのではないか?と考える場面も生じた。これらの疑問に共通する「大学教育や大学で提供されているサービスは、AIで代替可能か?」という点について、私は「すべてを代替することはできない」と考えている。その理由は「AIと

のやりとりの中からは偶然の出会いが生じないから」である。

この結論および理由の根拠は、自身がゼミ活動の中で自身の行動や考え方に変化を与えてくれた人や出来事と出会ったことに端を発する。私は、とあるゼミ活動の中で「鈴木さん」という人物と出会った。鈴木さんは、元々中学校の理科教員として働いていたが、在職中に青年海外協力隊として発展途上国の教育支援に従事した。青年海外協力隊としての任期を終えた鈴木さんは、中学校の理科教員の職へ戻ることなく、派遣された国へ移住し、その国における教育の発展に関する仕事を継続している。この鈴木さんの経歴やこれまでの成功体験・失敗体験、それらの体験を踏まえて今考えていることなどを聞かせていただき「考え込み過ぎずに、まずは行動してみることが、自身の将来を切り拓くうえで必要なこと」だと感じた。これまで、何かに挑戦したいと思いつつも、失敗したときのことや今の安定している状況等を考えると、一步を踏み出すことができないことが多々あった。しかし、鈴木さんの話を鈴木さん本人から直接聞いたことにより、一步を踏み出す勇気が出てきて、現在では少しでも興味があると感じたことについては二の足を踏むことなく挑戦できるようになった。

このような経験は、AIからは生み出されることはないと考えている。もしかしらば、ChatGPTを活用すれば、鈴木さんが話してくれたような内容を情報(活字)として取得することはできるかもしれない。しかし、そこには実際に体験してきた人の言葉という「重み」が感じられないだろう。また、鈴木さんとは、私が所属しているゼミの活動を通して出会ったので、もしもこのゼミに所属していなければ、このような出会いは無く、自身の考えや行動が変化することもなかったかもしれない。そう考えると、上述したAIを活用したエントリーシート作成サービスに頼り切ってしまうことによって、キャリアセンターや同じ年代の就活生から得られる情報や体験を失っていたかもしれない。

AIは大変便利で様々なことを効率化してくれることから、それを活用すること自体は意味のあることだといえる。

しかし、AIが大学の持つ機能のすべてを代替することは、おそらく難しい。だからといって、大学がこれまで通りで良いというわけでもない。私は、自身の経験から大学には人と人の偶発的な出会いがたくさん存在すると感じている。この偶発的な出会いの場として大学が機能していくことが大切なことなのではないかと考える。

大学教育におけるAIの位置づけについて考える

スポーツ健康学部 スポーツ健康学科 岡野 沙絵

Windows95の発売によりインターネットが世界中に普及したり、2007年にiPhoneが発売されたことによりスマートフォンが普及したり、今を生きる私たちにとってインターネットやスマートフォンといったIT技術やその技術が詰め込まれたツールは生活に欠かせないものとなった。さらに、それらの進化はとどまるところを知らず、2020年代はブロックチェーンやAIなどIT関連における新しい時代が到来しようとしている。特にAIに関しては、2022年11月にOpenAI社がChatGPTという文章生成系AIを公開したことが大変話題となった。このChatGPTを含め生成系AIと呼ばれるものは、そのAIの利用者が要求した内容について、インターネット上に存在する膨大なデータをもとに、文章や画像などを生成する。さらに最近では、文章や画像だけでなく、動画を生成するAIが誕生したり、AIが生成する文章や画像などの質が著しく向上したりしており、もはや私達人間が頭を働かせて文章を考えたり、感性を磨いて絵画やイラストを描いたりする必要がなくなってしまうほどのものである。

この生成系AIを私達の大学生活に導入した場合、例えばレポートの作成などはAIに任せてもいいのではないかと安易に考えてしまう。その点に関して、本学を含め様々な大学で「生成系AIの利用について」という形で基本方針が打ち出されており、その取り扱いについて、自身の学修という観点からAIとの付き合い方について考える必要があると感じた。

そこで、大学教育においてAIはどのような形で活用されるべきかについて、教育を受ける立場から自身の大学の経験を踏まえて考えてみたいと思う。

生成系AIを利用して感じたこと

私が所属するゼミで、「やりたいことを実現する方法」について、ChatGPTを活用しながらブレインストーミングを実施するという機会があった。ChatGPTに知りたいことやアイデアを出してほしいことを伝え、数秒でアイデア等を出してくれるという体験をして、そのすばさを肌で感じた。また、ChatGPTはアイデアを出してくれるだ

けでなく、それまでのやりとりの要点を整理したり、要点を踏まえたプレゼン原稿を作ってくれたりするなど多彩な能力を持っており、活用の方法次第では、多くのことを効率化できると実感した。ただ、指示の出し方によって返答内容の質が大きく変化するので、その指示の出し方を勉強する必要があると感じた。

AIでは得ることができない経験や体験

上記とは別の機会にゼミ活動の一環として、ゼミ対抗ミニ運動会の企画・運営を行った。この企画を進める際には、ChatGPTを活用せず、自分たちの力ですべてをつくり上げた。その結果、「こう伝えれば(指示すれば)、こう動くだろう」と思っていたが、想定通りにはいかないことがたくさん起り、十分に満足できるミニ運動会とはならなかった。つまり、私達のミニ運動会は失敗に終わったのである。ただ一方で、その想定外を何とか軌道修正しようと、その場でゼミ生と話し合いながらミニ運動会を進行していったため、企画が総崩れするという事態は避けることができた。このような失敗、さらには失敗を少しでもリカバリーしようという行動はAIを用いた学習を含め、机上では決してできない体験であり、これらの体験は実践的な知識やスキルとして、私自身に深く刻み込まれたと感じている。



▲想定外の状態を軌道修正しようと話し合っている様子

AIと大学教育のベストミックス

運動会の種目を考える時にChatGPTを用いて「運動会

で楽しめそうな競技種目を挙げてください。ただし、実施場所は体育館で、バスケットボールコート1面分程度とします」といった形で、運動会の種目を考える際のアイデア・材料を提供してもらうことは可能だったと感じている。また、上記での想定外についても「○○という種目を1チーム△人の◎チームで実施します。このときに考えられる競技中のトラブルは何だと思えますか?」「競技説明をする際に、参加者が理解できなさそうなポイントはどこだと思えますか?」といった形でChatGPTに質問し、回答を得たうえで、それらを参考にして競技運営上の想定外についての対策を事前に考えることができたと思う。

このような形でAIを活用すれば、自分達では思いつかなかったアイデアを活用しながら、よりよいイベント企画や運営が実現できただろう。また、AIがアイデアを出してくれたり、テンプレートとなる文章を作成してくれたりすることにより、私たちは、このイベントの企画や運営に関わる業務を効率的に行うことができるかもしれない。

以上を踏まえると、大学教育においてAIを活用することに異論はないが、その前提として、何をAIに任せて、何を自分たちの力で実施するのかを判断する能力を養う必要性があるといえる。

AI時代における大学教育

大学院 経営・流通学研究科 劉 燕

1. 自己紹介

私は、2022年4月から大学院博士後期課程に進学して博士論文の仕上げに取り組んでいます。私は中国・貴州省の出身です。出身大学は貴州師範学院で専科は教育英語でした。私は2013年頃から日本語を第二外国語として学習し始めました。2016年4月から日本の百貨店で通訳の仕事に従事しながら、大阪市内の日本語学校に通学しました。その時に、大学院に進学したいと思い大阪産業大学の研究生として半年ぐらい勉強しました。

そして、2020年4月に大阪産業大学大学院の経営・流通学研究科博士前期課程に入学して現在まで研究を続けています。

2. 研究活動

私の前期課程の研究テーマは『中国市場における化粧品ECのマーケティング戦略～コーセーのコスメデコルテをもとに』でした。内容はコスメデコルテの中国市場での成功要因について、マーケティングのアプローチを通して明らかにすることでした。私は修了後、引き続き後期課程に進学して『中国市場における顧客接点を活かした小売マーケティング』と題して研究中です。現在のマーケティング研究はデジタル社会の影響下で大きく変容しようとしています。

私はこれまでに、アジア市場経済学会全国研究大会で2回報告しました。今年の7月には『中国市場における顧客接点を活かしたマーケティング戦略～永輝超市と盒馬鮮生の事例をもとに』と題して報告しました。中国市場ではアリババグループが経営する食品スーパーマーケットの盒馬鮮生が急成長しています。盒馬鮮生はオンライン(ネット)とオフライン(実店舗)の多様な接点からビッグデータを収集して小売活動に活かしています。

マーケティング研究の第一人者であるKotlerは、著書『マーケティング5.0』でビッグデータやAIを活用した「セグメント・オブ・ワン」のコンセプトを提示して、マーケティングはデジタルを中心に再構築される必要があることを強調しました。さらに、Kotlerはマーケティング5.0を支

えるネクスト・テクノロジーは人工知能(AI)、自然言語処理(NLP)、センサー技術、ロボティクス、拡張現実(AR)、仮想現実(VR)、IoT、ブロックチェーンなどだと述べています。ビッグデータ分析ツールはマーケターが個々の顧客に合わせてマーケティング戦略をパーソナライズするプロセスを可能にします。企業はAIの機械学習による予測アルゴリズムの支援を受けることができます。予測アルゴリズムは新製品開発、購買パターンの解析、レコメンド(推奨)の支援を可能にします(Kotler et al.(2022) 邦訳 pp.23-24)。

このようなマーケティングの考え方は小売マーケティングにも大きな影響を与えています。小売業はセンサーとIoTを業務プロセスに使うことで、実店舗空間におけるデジタル体験を提供できるようになります。店舗の顔検知センサーが顧客の属性をAIで解析して適切なプロモーションをオファーすることができます。企業はセンサーやアプリから収集したビッグデータを、独自に開発したアルゴリズムを用いてAIで解析しながらマーケティングに生かすことができます。

3. AI時代に必要な能力

AIやロボットなどのネクスト・テクノロジーが活躍する時代に私たち人間にはどんな能力が必要なのでしょう。マシンが読み取れるデータは顕在化した行動によるデータが中心です。人間は行動の背後にある動機や態度、さらにはその基礎になる価値観などを五感で感じながら推察することができます。また、複数でプロジェクトを運営しながら課題を解決することも人間でないと難しいと思います。AI時代に大学教育に求められるのは、学生同士のコミュニケーションや関係性を通してこのような能力を磨くことだと思います。

私は博士論文を執筆中です。論文は自分で背景・問題意識を明確にした上で、研究目的やリサーチ・クエスチョンを設定します。「生成AIが活躍する時代に重要な能力は「質問をする力」「問いを立てる能力」だと言われます。具体的にはどこまで斬新な質問ができるか、どこまで深掘り

の質問ができるかは、今後の知的作業の多くの部分を占めること」になります(日本経済新聞2023年7月11日)。

これからの人材には特に現状に対して批判的に考える力、自分の考えを伝えて相手に納得してもらえるようなプレゼン能力、そして創意工夫する能力や意欲が求められると思います。私は大学院で自ら問いを立ててその答えを自分の力で探していくための能力開発をしたいと考えて取り組んでいます。



▲写真1 盒馬鮮生電子價札の写
出所：筆者撮影



▲写真2 盒馬鮮生自動支払いシステムの写
出所：筆者撮影

参考文献

Kotler, P., H. Kartajaya & I. Setiawan(2021)
MARKETING 5.0: Technology for Humanity,
恩藏直人監訳(2022)『コトラーのマーケティング
5.0 ～デジタル・テクノロジー時代の革新戦略』朝日
新聞出版。
日本経済新聞2023年7月11日。

AI時代における大学教育

大学院 経営・流通学研究科 張 佳成

1. 自己紹介と経緯

私は中国江蘇省出身です。日本の文化や生活が好きなので日本に憧れて、中国の南京師範大学を卒業して日本に来ました。それから1年間は日本語学校に通学して卒業後に、中央学院大学に編入学しました。私は自動車の運転が大好きなので、いろいろな自動車の性能や操縦に関心があります。最近では世界的に地球温暖化ガス削減に関心が集まり、新エネルギー車(NEV)が注目されています。以上の経緯で私は大阪産業大学大学院に進学し、新エネルギー自動車市場、その中でも純電気自動車(BEV)の流通マーケティングの研究をしています。

2. 研究活動

私は大学院前期課程ではテスラについて研究して修士論文を作成しました。テスラはトヨタなどの伝統的なメーカーとは全く違う流通マーケティングをおこなっています。テスラは日本では当たり前のディーラー経由で自動車を販売していません。テスラはスマホやパソコンなどと同じようにインターネット経由でBEVを販売しています。また、テスラは日本の自動車メーカーのようにテレビなどのマスメディアを活用していません。基本はSNSでの情報発信やユーザー同士のオンライン上のコミュニティに力を入れています。

後期課程では『中国市場における純電気自動車の流通マーケティングについて』をテーマに研究を継続しています。

20世紀はガソリン・エンジン車の流通マーケティングが中心でした。トヨタはその技術の延長線上のハイブリッド車で好業績を上げています。中国市場では新エネルギー車が政策的な支援で急成長しています。その中でも純電気自動車のシェアが高くなっています。2022年の中国市場の自動車の新車販売台数は2,700万台です。そのうち、電気自動車EV(PHEVとBEVの合計)は540万台です。これは同年の日本での新車販売台数(ガソリン車が中心)を上回ります¹⁾。この数字から如何に、中国市場で電気自動車が成長しているかがわかると思います。純電気

自動車はモーターで動きます。したがって、ガソリン・エンジンとは全く違うサプライチェーンで組み立てられます。ちょうどパソコンやスマホなどがモジュール化された部品を調達するのと同様の仕組みです。

これからはAIEVの時代です。中国市場では自動運転などでインターネットと自動車につながり、膨大なデータ(ビッグデータ)が蓄積されています。これをAIが解析することで多様なサービスを提供する仕組みが構築されています。

自動運転はシステムの支援状況によって5段階のレベルに分類されます。中国や米国はすでに運転手がいなくても特定条件下で完全にシステムが運転を担う「レベル4」が登場しています。中国インターネット大手の百度(バイドゥ)などは無人で自動運転するタクシーを実用化しました²⁾。

中国のNEVやBEVのメーカーの多くはIT関連企業(たとえばアリババ、テンセント、百度、レノボなど)との共同



▲写真1 自分が好きな自動車の写真
出所：筆者撮影

出資によって経営されています。また、中国政府は国策でNEVを積極的に支援しています。2020年に中国政府は「省エネルギー車・NEV技術ロードマップ2.0」を発表しました。この計画では新車販売におけるNEVの割合を2025年までに20%以上、2030年までに40%以上、2035年までに50%以上に引き上げることが掲げられました。さらに、2035年には新車販売におけるガソリン車は全て市場から排除される方針です。すでに、2022年の実績でNEVの割合はすでに30%程度になっており計画を大きく上回っています。このような環境下で中国の自動車産業は急速に力を付けています。

3. まとめ

私が研究をしている自動車業界はこのように環境が激変しています。私はビッグデータの解析や過去のデータをもとづき将来を予測することはAIの方が人間よりも圧倒的に優れていると思います。しかし、五感を働かせなが



▲写真2 学会で院生賞受賞³⁾
出所：筆者撮影

ら自由な発想や想像力で仮説を設定する創造力は圧倒的に人間が優れていると思います。現在の自動車産業はNEVやBEVへ急速に移行することで機能性、経済性はもちろんですが、世界観、真善美などの価値観が重要になっています。機能的、経済的価値よりも精神的な価値を重視する人たちが増えています。今のところ、この精神的な価値は人間でしか理解できません。私は精神的な価値を磨くことがこれから必要とされる人間の根源的な能力であり、この能力を磨くのが大学教育の役割だと思います。

注

- 1) 2023年2月12日中国汽車工業協会発表。
- 2) 日本経済新聞2023年9月15日3面。
- 3) 大阪産業大学Webページ

<https://www.osaka-sandai.ac.jp/news/topics/48481/>(最終閲覧日：2023年9月18日)。

AI活用術を越えて大学で学ぶべきこと —AIのもたらす課題とAI規制—

経済学部 国際経済学科 教授 本田 雅子

昨年11月、アメリカの新興企業オープンAIが「チャットGPT」を公開して以来、生成AIに対する注目がますます高まっている。生成AIとは、コンピューターに大量のデータを学習させ、ユーザーが指示を与えると文章や画像、音声などを生成できるもので、「チャットGPT」はその代表例だ。「チャットGPT」に質問や命令を入力するだけでコンピューターが瞬時に文章作成やプログラミングなどの作業をこなしてくれる。先進的な企業は生成AIを既に業務に取り入れつつあり、今後はAIを上手に活用できる人材の育成が大学教育にも求められていくのだろう。

しかし、大学教育は単にAIの活用術を学ぶだけであってはならない。生成AIをめぐる倫理的、経済的、法的、政治的さまざまな問題を引き起こすことが指摘され、実際、既に大きな問題が顕在化している。今年の夏、アメリカのハリウッドで俳優の労働組合と脚本家の労働組合による大規模なストライキが起きたが、この背景には映画や番組の制作会社との報酬やAIの扱いをめぐる対立があった。制作会社はエキストラ俳優のモーションをスキャンし、そのスキャン画像を未来永久に使うことを求め、脚本家にはAIで脚本の下書きを生成することを求めている。エキストラ俳優はスキャンされた後に使い捨てにされ、脚本家の仕事はAIに代替されてAIが作成した下書きを修正するだけのつまらない作業となってしまうかねない。組合側はAIの導入のされ方に規制をかけ、俳優や脚本家に公正な対価が支払われるよう求めているが、経営側との隔たりは大きく、対立が長期化した^注。この他、AIには偽情報を拡散するリスクや著作権侵害の問題など様々な課題がある。AIは社会に利益をもたらすが、無秩序な導入は社会に混乱をもたらすため、規制が必要なのである。大学教育、とりわけ社会科学の学部ではこの点を学生に教える必要があるだろう。

世界においてAI規制は欧州連合(EU)が一步先を行っている。2021年4月に欧州委員会が規制案を発表し、議論を重ね、今年の6月に欧州議会が修正案を賛成多数で採択した。理事会の合意が残るが、年内合意を目指す段階である。規制案はAIのリスクの高さを4段階(①禁止、

②ハイリスク、③リミテッドリスク、④ミニマルリスク)に分類し、リスクに応じて規制を設けるもので、企業に対して画像や文章がAIによって生成されたことのお知らせとシステム開発に使用した著作権の開示を求め、法違反には最大4000万ユーロ(約63億円)または法人の場合年間売上高の7%の罰金を科す内容となっている。EUの規制案は企業にとって厳しいものに見えるが、EUは決してAIを否定する立場ではない。むしろEUはAIを医療の改善、交通の安全性、製造の効率性、エネルギーの持続可能性などに貢献し、多くの利益をもたらす得るものとして肯定的にとらえている。EUはAIシステムを人間の監督下において安全・透明・倫理的・不偏なものとすることによって脅威を抑制し、生成AIがEUの価値(民主主義や人権、法治主義など)への脅威となるのを防ぎ、AI技術をEU市民にとって「信頼できる」ものにしたいと考えている。

AIに対する規制は国連でも議論が始まった。今年7月国連安保理事会はAIについて初会合を開き、グテレス国連事務総長は生成AIが各国の経済発展に貢献する可能性を評価する一方、大量のデマの拡散などAIがもたらす得る負の影響を問題視し、AIに対する世界共通の規範の作成を求めた。しかし世界共通の規範の作成は容易ではない。というのは国によりAI規制に対する温度差や目的の相違があるからだ。EUは民主主義に与える負の影響への懸念からAIを法律で厳しく規制するが、オープンAIやグーグルの本拠地アメリカは自国企業の自由な活動のために緩やかなガイドライン的なものになりたい思惑を持ち、中国はAIが共産党一党支配の脅威とならないように生成AIを規制する国内規則を独自に施行した。国や地域により規範がばらばらのままでは、厳しい規制をとる欧州から規制の緩い国にAI開発企業が流出する可能性があり、他方、中国の規制により西側の外国企業は共産党支配の脅威となることを理由として中国の国内市場から締め出されることになるかもしれない。

生成AIは画期的な技術である。しかし無秩序にこの技術の導入が進めば、不正利用が蔓延したり、社会を混乱させたり、経済格差のいっそうの拡大や社会的不正を

生み出す恐れがある。AIを適切に規制することが必要とされている。各国がそれぞれの目的で独自にAI規制を行うと、貿易や投資に歪みをもたらされかねない。世界共通の規範やルールの作成が求められるが、それはまだ始まったばかりである。今後AIがもたらす諸課題とAI規制の在り方について学生と共に学んで行きたい。

注

この対立は本原稿の執筆時点ではまだ続いていたが、11月に入り、ようやく長期ストは終結した。最低報酬の大幅な引き上げやAIの脅威から労働者を保護する同意など、労働組合側にとって大勝利と言える結果を取り付けたようだ。AIの脅威に対する労働者保護の参考例となるだろう。初校の時期と重なったので、注記しておく。

参考文献

EUのホームページ : Excellence and trust in artificial intelligence
https://commission.europa.eu/strategy-and-policy/priorities-2019-2024/europe-fit-digital-age/excellence-and-trust-artificial-intelligence_en

AI教育の重要性について

デザイン工学部 環境理工学科 岡本 穂香

近年、ITは急激に進化し続けて、新しいツールや技術が増え続けています。例えば、AI(人工知能)、IoT、クラウドコンピューティング、5G、ドローン、ロボットなどです。この他にも私たちの生活に影響を与えている技術は気づいていないだけで数多く存在します。ですが、そんな目新しく出てくる技術を使い、管理し、活用していくのは、人間であるという事を忘れてはいけません。最新技術を取り入れる場合、どんな問題を解決することができるのか、誰が使うのか、操作できる環境が整っているのかを考える必要があります。英国の大手運送会社Wincantonの最高情報責任者であるRichard Gifford氏は、「ブロックチェーンのようなものを導入しようとするときには、技術そのものよりも技術の成熟度が問題になる場合が多い。成功させるには、すべてのパートナーが取り組みに賛成し、同じレベルの理解を持っている必要がある。それなしで、この種のプロジェクトが順調にスタートすることはない」と述べています。私は、現在卒論で公園管理情報システムを導入した経験をもつ公園にヒアリング調査を行っています。まさに、導入に成功しなかった公園は、Gifford氏が指摘している通りの課題を抱えていました。公園管理情報システムを導入した当初、スマートフォンの利用が一般的でなく、新しい技術への抵抗感や利用者の認識の違いなどの課題を抱えており、システムの継続利用を断念せざるを得ませんでした。利用者のシステムに対する知識や技術、環境が不十分であったことが考えられ、技術の進化に人間の知識とスキルが追いついていなかったことが、要因だと考えられます。

最近、ChatGPTのような生成AIが日常で使われるようになり、信ぴょう性の低い情報を使い、生成された文章を課題作成などに使用して問題になりました。こうした問題は、情報リテラシーに関連しており、教育機関で情報リテラシーやAIなどの技術について学ぶ重要性が高まってきています。技術に関する基礎知識の有無は、新しい技術が出てきたときに瞬時に対応し、その活用方法を見極める上でとても重要になってきます。その教育は、学生だけでなく先生も学ぶことが大切であり、進化し続けるAIを否

定していくのではなく、急速に進化する技術をむしろどう活用するかを考えることが重要になってきます。今後、生成AIなどの新技術がますます注目を浴びる中で、将来的にはその活用を可能にするために、世代交代のタイミングで実用化できるかどうか重要になってきます。そのためには、現在学生である若い世代がAIについて学び、AIの能力を向上させるためのデータや経験を蓄積する必要があります。こうした努力により、気候変動や温暖化といった未来の課題に対処する能力を高め、AIの潜在的な可能性を最大限に引き出すことができるでしょう。

4月、社会人として技術者の立場になることを考えると、新しい技術を積極的に導入しようとする際には、エンジニアの独りよがりになってしまわないように気をつけたいと思います。そこで、新しい技術の導入に際して、利用者がどこまで理解しているのかを把握し、顧客が何を必要とし、どのように活用できるのかを理解することが重要だと考えました。さらに、新しい技術がどのように発展してきたのか、その経緯をしっかりと把握することが正しくシステムを開発するために必要だと思います。

これからの最新の技術と、特にAIに関する大学教育は、教育環境を大きく変える可能性を秘めています。しかし、AIを効果的に活用するためには、技術の進化と社会の変化に対応し、教育機関や教育者が適切なガイドラインや枠組みを整備し、継続的な教育と専門知識を提供することが不可欠です。そして、AIを社会の進歩に寄与するツールとして活用することが重要になってくるでしょう。

AI時代と大学教育

工学部 機械工学科 土井 正好

最近、ChatGPTが持つ高度な言語判断処理能力が話題に上る。ChatGPTは人間に匹敵する回答と文章を提供できる。ChatGPTを生み出したのは人工知能(以下AI)技術である。今まさにAIブーム到来である。

しかしながら、このAIブームは「いったい何度目のAIブームだろうか?」と私は振り返る。過去を遡ると、私にとっては7回目? 8回目?のAIブーム騒ぎの印象を持つ。WEBを利用してAIブームを調べると、第1から第3次ブームに大きく分類される。第1次ブームは1950年代後半から1960年代にかけて、コンピューターによる推論や探索の研究が盛んになり、特定の問題に対して答えを提示できるようになった。AIへの期待が高まったことで第1次AIブームが到来する。しかし、研究が進むにつれて、迷路やパズルを解くことや定理の証明などの単純な問題を解決することはできても、現実社会の複雑な課題は解決できないことが明らかになった。そのため、AIへの失望感が広がり、冬の時代を迎える。1980年代の第2次AIブームでは、主にエキスパートシステムに注目が集まる。エキスパートシステムとは、専門的な知識を取り込んで推論を行うシステムである。これにより、第1次AIブームではできなかった複雑な課題に対する解を導き出せるようになり、第2次AIブームが起こる。また、AIに知識を与えられるようになったことで、音声認識技術の向上などAIの技術が発展し、日本でもAI研究が活発に行われるようになった。しかし、実際にAIに活用できる知識量に限界があることが判明し、AIは再度冬の時代を迎える。2000年代から現代に至る第3次AIブームでは、大量のデータを意味する「ビッグデータ」が登場し、ビッグデータを用いてAIが自ら知識を獲得する「機械学習」が実用化された。また、ディープラーニング(深層学習)の登場によってAIはさらなる発展を遂げる。2012年には、画像認識にディープラーニングが適用され、画像認識技術はさらに向上し、顔認証システムや欠陥品の検査などさまざまなシーンで活用できるレベルになった。画像認識だけではなく、音声認識やデータマイニング、検索など多くの分野で技術が向上し、AIが活用された製品やサービスが生活の中で身近な

ものになった。

AIによって、大学教育ではどのような影響があったらう。滋賀大学を皮切りに、全国の複数の大学でデータサイエンス学科が誕生した。関西において筆者が知るところでは、神戸学院大学経営学部データサイエンス専攻や追手門学院大学心理学部人工知能・認知科学専攻など様々な分野からデータサイエンスに入り込む。しかしながら現実として、高校生から人気がない。確かに大人の考えは「これからはデータサイエンス技術者が社会ニーズ」であっても、高校生にとっては「何それ? 難しそう、避けよう」なのである。また、社会で必要とされそうと言ってみたものの、データサイエンス専門家として募集する具体的な就職先は少ない。例えるなら、大学にロボット学科を設置したところでロボット技術者としての求人は皆無である。FANUCや安川電機といった産業ロボットメーカーに就職しても、作るロボットは所詮、自律AIロボットではない。

それでは、AI教育は必要ないのだろうか?ここまで否定したものの、私はAIやデータサイエンス教育は必要と考える。ただし、データサイエンス学科設置ではなく、既存の学科教育(機械工学科、経済学科、社会学科など)の1科目としてAIやデータサイエンスを取り上げたい。なお、AI並びにデータサイエンス教育は統一せず、各学科の講義で各専門分野に関係して利用できる事例技術を示すべきと考える。機械工学科であれば、車・船舶・航空機の自動運転や各地工場複数機械のIoTネットワーク敷設が挙げられる。

ChatGPTは第3次AIブームの延長線上に過ぎない。ChatGPTという便利なAI技術が世に放たれ、この技術の提供者は「使え使え」と囁き立てる。しかし、多くの人はその末路を予想できていない。ChatGPTならば政府答弁を作り、学生の調査レポートを肩代わりし(場合によっては研究者も)、就職採用の可否も判断する。この通りであればAI普及によって人は職を失い、人は考えることを止めてしまう。最近、アメリカの俳優労働組合がストライキを起こした。AI利用によって俳優職を奪われてきているからである。低賃金で俳優の顔写真だけ撮影し、あとはAIと

CGが映画ストーリーを創作してくれる。人は演技する必要がないのである。

思い返すと1997年にチェス王者が、2015年に囲碁トップ棋士がAIに負けた。王者が頭を抱え苦悩する姿を見て、いよいよAIが世界を凌駕する時代が来る印象を受けた。一方、AIを頭脳として搭載するロボットの分野では、RoboCupというサッカーロボットを競う大会が1997年から始まり、「2050年までにサッカーワールドカップのチャンピオンチームに勝利する」という目標を掲げている。ここで読者に問いたい。もし仮に「陸上競技100m走ロボットを作る大会」だったとして、100mを5秒で疾走するロボットを生み出し、100m世界一の人間と競わせ、ロボットが圧倒勝利した光景は人に夢と希望を与えるのだろうか？

私は名刺に工学博士と記載しながら、英字ではPh.D.と書く。本来はPhilosophy of Doctorとは“哲学博士”なのである。歴史的な経緯があると思うが、私はあえて「哲学のある美しい工学」を追求したい。

AI時代の人間教育

全学教育機構 教職教育センター 山田 啓次

機器の発達 は人間の身体を代替させ、あるいはその能力を何倍にも拡張するものであった。自動車は足を代替し、限られた時間でより遠くへ行けるようになった。クレーンやトラクターは腕や手を代替し、望遠鏡や顕微鏡は視力を拡張した。また脳の機能を代替するものも登場した。カメラやレコーダーは人間の記憶を代替し、コンピュータは計算力を代替した。これらは人間の思考によってコントロールされ生活を豊かにしてきた。

近年、AI(人工知能)の発達が著しい。特に2022年11月に公開されたChatGPTにより人々の関心は一気に高まり、生成AIという言葉が一般化させた。生成AIは脳の働きの思考を代替するものであると考える。これまで人間の思考で多様な機器をコントロールしてきたが、この思考を代替するAIが誕生したわけであるから、これまでの機器開発とは質が異なる。極論として人間自体を代替することもでき、AIが社会を変えることは想像に難くない。

さて、政府はこれまでの社会の変革を5段階で表し、次世代をSociety5.0とした。注目すべきは変革のスパンである。狩猟社会(Society 1.0)は数万年、農耕社会(Society 2.0)は数千年、工業社会(Society 3.0)は数百年、情報社会(Society 4.0)は数十年といえよう。つまり変化の時系列は対数的に推移している。この流れでいくと、きたるSociety5.0は数年で変革されるのだろうかと考えてしまうほど社会の変化が著しい。内閣府によればSociety5.0はサイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会であり、日本が目指す未来社会と示されている。この未来社会が到来し数年で変革されるとすれば次に人間に求められる能力は想像できるだろうか。

このような時代において人材育成をつかさどる大学ではどのような教育をすればよいのか。技術が高度化すると仕組みは複雑になり、より専門的な教育が必要になるというのがこれまでの常識であるが、近年はこれも少し違ってきている。例えばコンピュータにおいては、これまで複雑な処理をより高速で行うにはプログラミング技術が必

要で、一般には不可解なプログラミング言語を使い、一昔前ならマシン語なる16進数で表示されたプログラムを考える必要があった。近年はビジュアルプログラミング言語とよばれる直感的なプログラミングが普及しており、視覚的に矩形を矢印で繋ぐだけで実用的なプログラムを組むことも可能である。事実、小学生(高学年)が3時間も学習すれば基本的な「お掃除ロボット」の動きをプログラミングできるようになる。つまりコンピュータの発達に伴うヒューマンインターフェースの発達により、プログラミングは専門家だけのものではなくなったといえる。

そうになると人間が修得すべき能力は何かということになるが、筆者は主体性であると考えている。主体性とは自分自身の意志や判断に基づき責任を持って行動することであり、人間行動の源であるともいえる。これを教育のなかでどう具現化させるかである。2017年度に改定された新学習指導要領では評価の基準が3つ示された。「知識・技術」「思考・判断・表現」「主体的に学習に向かう態度」である。AIはまだ過渡期ゆえ多くの課題を抱えているものの「知識・技術」「思考・判断・表現」はAIが代替できる分野であると考えている。しかし「主体的に学習に向かう態度」は個人の意思であり代替できるものではない。学習にかかわらず主体性は個人の行動を規定するものであるからすべての分野に波及する。また変化の激しい時代だからこそ、人生の初期に得た知識で後の人生を乗り切れるわけではない。そのためリカレント教育や生涯学習という概念が誕生し、ますますその重要性は増している。主体性はその部分においても重要な役割を担うものである。

人類は人間の能力を代替・拡張する機器を開発することにより豊かな生活を享受できた。機器はあくまでツールであり人間の意思決定に基づき活用されてきた。AIもあくまでツールであり、本質的には人がコントロールしてこそ人間社会における価値があると考えている。人間は時として本人も予期しない感情が自然に湧いてくる。喜び、悲しみ、怒り、笑い、このことが幸福の源泉のひとつであるがAIはそれを共有できない。

18世紀の哲学者であるルソー(1712-1778)は「道

具が巧妙になればなるほど、私たちの器官は粗雑になり、不器用になる」という言葉を残している。これは子どもの発達段階におけるおもちゃのことであるが、人間の知識・技能、思考・判断・表現が不器用になるとコミュニケーション力が低下するだけでなく、同時に自己効力感も低下し無気力になるのではないかと危惧する。これからの教育においてはAIを使いこなす能力と同等に、主体性を高めるため、ツールの発達によって失われた経験の機会を提供し、体験による学習を充実させる必要がある。

学会主催見学会

学会主催見学会

Tours Sponsored by the Academic Society



令和5年度 写真・イラストコンテスト(写真部門)応募作品
「空中庭園展望台」
SON SOL(経済学部 経済学科)

「愛知 交通産業見学会」感想文

宮城 陽裕

私は、大学生最後の夏休みに「愛知 交通産業見学会」に参加しました。昨年の学会コンテストで、私が考えたプランが採用され実際に現地を見学できるので、参加する前からとても楽しみにしていました。

大学から愛知県まで、サービスエリアでの休憩を含めて片道約3時間かかりましたが、普段見慣れない街並みの景色を堪能しあっという間に最初の目的地に到着しました。

最初に、トヨタ博物館で歴代の自動車の展示を見学しました。施設の方から、トヨタの歴史とトヨタが初めて生産した自動車について5分間説明を受けました。自動車の見どころや歴史について詳しく聞き、自動車の歴史について理解できました。建物がクルマ館と文化館の2か所あり、最初にクルマ館を見学しました。19世紀から現代までの自動車約140台が展示され、トヨタだけでなく国内外のメーカーの自動車も展示されていました。参加者全員がスマートフォンで撮影するほど夢中になり、車に詳しくない私でも楽しみました。特に、セダンなどの高級外車やスポーツカーの展示エリアでは、ずっと眺めてしまうほど夢中になりました。

次に、文化館を見学し自動車の文化についてミニカーなどが展示されていました。中でも興味があったものは、車のナンバープレートです。世界各国のナンバープレートが展示され、デザインがそれぞれ異なりとても面白かったです。

さらに、文化館ではSDGsの企画展が開催されており、太陽電池を搭載した自動車など環境に配慮した自動車が展示されていました。特に、ドラえもんの背中にソーラーパネルを取り付けた「ソラえもん号」はとても可愛かったです。この「ソラえもん号」は、今回偶然展示されていたのですが、後日調べてみると、本学の教員も製作に協力されていたことを知りました。1993年にオーストラリア大陸を走るレースに参加し10日間で3000km走り抜いたという記録もあって大変驚きましたし、本学関係者が世界に先駆けて活動されていたことを知りました。



▲数年前まで本学で保管されていた「ソラえもん号」

次に、中部国際空港内にあるフライトオブドリームズを見学しました。愛知県は、自動車以外に航空機の胴体や主翼などの生産が盛んです。そのため、アメリカの航空機メーカーのボーイング社と深い関係があります。施設内に入るとボーイング787型機が展示されており、航空機の大きさに感銘を受けました。

まず、ラグジュアリーフライトで航空機の離着陸のシミュレーターを12分間体験しました。航空機を上手く操縦できるか不安でしたが、インストラクターの方がコックピット内の計器の見方や操縦方法を丁寧に教えてくださいました。実際に体験して、航空機を安定して飛行させるのに細かな調整が必要であることを学び、操縦の難しさを痛感しました。体験を終えたときは、「もう一度体験したい」という気持ちになるほど楽しめました。

次に、展示されている航空機の胴体やエンジンなどを間近で見学しました。エンジンなどの部品の実物を見て、その大きさに圧倒されました。また、展示ブースでは航空に関する用



語や豆知識が紹介されていました。近年の航空機は機体を軽量化させるため炭素繊維を使用していることを、初めて知りました。航空機が離陸する原理や歴史について学び、航空業界について興味を持ちました。

さらに、残り時間で友人と空港内を見学し名古屋のお土産を購入しました。フライトオブドリームズと空港を巡るのに2時間では足りませんでした。友人と楽しい思い出を作ることができました。



最後に、2つの施設を見学して自動車や航空機は、環境に配慮して開発・生産されていることを学びました。私は、機械工学科に在籍し「カーボンニュートラル」や「炭素繊維」について学びましたが、見学することでより理解が深まりました。今回は初めて友人を誘い一緒に行動しましたが、とても楽しく大学生活のよい思い出を作ることができました。フライトオブドリームズは、プライベートで訪れたいです。秋の見学会も参加し、最後の学生生活を過ごしていきたいと思います。



(工学部 機械工学科)

鈴鹿安全運転研修を通じて

塩見 大輔

はじめに、なぜ私がこの研修会に参加しようと思ったのか。それは、普段車の運転をしないからである。私は、今年の7月に運転免許を取得したばかりであった。それ以降、車を運転しなかった。このままではペーパードライバーのまま社会人を迎えてしまう。そんなとき、友人がこんな研修会があると紹介してくれた。この研修会で運転練習をしようと考えた。参加費も交通費、昼食代込みで1000円ととても良心的な価格であった。

当日の流れはこうである。大学に8時半集合でそこからバスで第二阪奈・名阪国道を通過して鈴鹿サーキットまで向かう。所要時間はおよそ2時間半であった。なお、そこまでの道中はカーブが多く、酔いやすい人は苦勞するだろう。11時過ぎに鈴鹿サーキットの交通教育センターに到着し、16時までの5時間(休憩1時間)研修を受けた。最初にオリエンテーションを30分ほど受け、その後実車訓練に移った。その際、凄いものを見かけた。それはNSX

という高級車である。私は車に詳しいわけではなかったが、車に精通している友人たちとはとても興奮していた。価格は3000万円、いかにも高級車という内装で、実際に運転席にも座ることができた。座り心地がよく、運転し



てみたいという欲もあったが、流石に傷をつけたらまずいと思い、諦めた。

高級車を見送った後、やっと運転に移った。最初は構内をぐるぐると運転し、感覚を慣らした。それでも運転は久々だったため、最初は恐怖でしかなかった。しかし、次第に運転にも慣れてきた。軽く運転した後、安全空間検証というものをを行った。これは、とっさに急ブレーキを踏んだ時や、急ハンドルを操作した際にどのくらいの距離で止まれるのか、どのくらいの時間で隣の車線に移れるのかを検証するものである。やり方はこうである。はじめに、前方に信号がある直線区間を時速40kmで走行する。次に、前方の信号が点灯したら急ブレーキを踏む。車線変更の時は、左右どちらか信号がついた方に急ハンドル操作をする。この検証でどのくらいの距離を空けていけば、前を走っている車と衝突しないのかを実際に数値に出して検証した。急ハンドルも同じようにどのくらいの時間があれば、急に歩行者が飛び出しても衝突しないのかを検証した。私の場合、急ブレーキは15m、急ハンドルは2.5秒であった。もちろん個人差はあるが、友人たちもほぼ同じような結果であった。しかし、インストラクターの方によれば、実際にはこの結果の2倍の30m開けていなければ衝突は免れないとのことであった。なぜならば、道路の状態や車のタイヤのすり減り具合で、停止距離が大きく変わってしまうからである。以上のことから、普段の運転でも前との車間距離を開けておくべきだと改めて感じた。

お昼休憩があり、昼食を食べた後、鈴鹿サーキットを探索した。この時は9月24日に日本グランプリが予定されており、その会場の準備が行われていた。メインスタンドに立ち入ることができて、F1好きの友人はとても興奮していた。友人曰く、「このチケットはほとんど当たらない、しかも高額」、写真に写っている座席で3万円ほどだという。とても高いが、F1は熱いものだったと思った。会場を出た後、アトラクションの方へ向かった。お土産も買うことができ、小学校6年生の修学旅行で乗ったロッキーマスターにも乗った。久しぶりに来ることができてとても楽しかった。



昼からはスキッド体験を行った。地面を水で予め濡らしておき、滑りやすい状態を作る。そこを走行しハンドル操作がどのようになるか、いわばドリフト走行である。やはり、滑りやすい道路なため、スピンしてしまい、操作がおぼつかなかった。しかし、日常でも雨のときに運転するのはよくあるため、とてもいい体験になった。最後に研修のまとめを行い、鈴鹿での一日を終えた。普段運転することがないため、今回の研修は運転練習も含めてよい体験になったと感じた。なお、帰りのバスでは友人たちとゲームをしたが、私自身酔いやすい体質のため、途中でダウンしてしまった。しかし、疲れていたこともあり、寝て帰路についた。

この研修は普段運転する人もしない人も受けるべきだと思った。私達以外に会社で研修を受けに来たグループもあり、重要な知識なのだと改めて感じた。費用も安いため、予定が開いている学生は是非参加してほしい。

(工学部 交通機械工学科)

関西国際空港見学会に参加して

横山 拓哉

私は小さいころから関西国際空港を利用して、手荷物検査を見ていました。『海猿』を見て海上保安官にあこがれもありました。去年に開催されていたのを知って興味を持ち、今年も開催されたので友達と参加しました。

この見学会では関西国際空港にある大阪税関と第五管区海上保安本部に行ってきました。



▲海上保安庁 見学

大阪税関では、まず、公務員としての職業に関する説明や摘発された密輸品、コピー商品について説明がありました。公務員に関する説明では聞きなじみのない言葉や難しい単語も一つ一つ丁寧に解説してくださりわかりやすかったです。次に、摘発されたものについての説明があり、ここでは摘発された事例を詳しく解説、またそこに潜む危険も教えて頂きとても興味深くまだ時間があれば聞いていたい内容でした。ブランド品の本物と偽物の見分けも体験しましたが注意深く見ないとわからないほど精巧な作りでした。これを見分けられるのは知識と経験が活かされていると感じました。その後、麻薬探知犬とそのパートナーのハンドラーによる検査のデモンストレーションが行われました。しっかりと麻薬のしみ込んだ布の所持を見分けていて感動しました。麻薬探知犬の検査が成功するとダミーと呼ばれるものを使い、麻薬探知犬はご褒美としてハンドラーと遊んでいました。麻薬探知犬とハンドラーの作り上げた絆が垣間見えて心が温まりました。そ

して、3名の現役職員における体験談や志望動機、現在の業務説明などの講話がありました。職場の雰囲気などの貴重な話とプライベートの話を聞き、有意義な時間を過ごすことが出来ました。もっと質問したかったです。

大学の授業で保安基準の長さ12メートルに適合しない車についての説明があり、昼休憩の時にその車を見ることが出来て驚愕しました。その車とは長さが18メートルを超えるバスであり、運転の難易度が格段に違うと感じました。

第五管区海上保安本部では最初に海上保安庁についての説明ののち、所属機動救難士によるデモンストレーションや現役職員(パイロット・機動救難士・機体整備士)からの現場体験談の講話がありました。デモンストレーションはヘリコプターに見立てた11メートルの高さから降下して救助するという内容でした。降下までの準備や降下するスピード、着地してからもう一人の降下などの動きに全く無駄がなく洗練された動きだと一目でわかるくらい素早かったです。救助や救命に使う道具を実際に身に着け、見る事が出来ました。すべてに助けるための工夫が施されており命を守る大切さが身に沁みました。次に実際に使われている航空機を見ることが出来ました。『海猿』でしか見たことがなかった航空機に乗ることが出来てすごく興奮しました。ヘリコプターでは操縦席に座って操縦桿を握り真横で装置やボタンの説明をして頂きました。



▲海上保安庁 ヘリコプター



▲海上保安庁 プロペラ機

憧れの操縦席で装置について様々な質問をして小さいときからの夢をかなえることが出来ました。さらにプロペラ機のドアが開放されており中に入っているレーダーのモニターや無線の装置も見学することが出来ました。担当の



▲海上保安庁 プロペラ機 レーダー、無線

方からめったに見ることが出来ないと言われたプロペラ機の内部です。民間機を基にしているが内部は座席が一部外され簡易的な作りになっていると感じました。

私にとって今回の見学会は貴重な体験が多かったため充実したあつという間の1日でした。昨年に行こうと思ったが時間が合わず行けなかったけれども、今回は友達と参加したため友達との思い出もでき、自分にとってもかけがえのない経験が出来ました。もし来年も開催されるのであればまた行きたいと考えます。

(工学部 交通機械工学科)

和歌山芸術鑑賞巡り感想

塚本 朱梨

大学からバスに乗って最初に行ったのは和歌山城です。到着してまず展示室に向かいました。展示室に入る前にシアタールームで、和歌山城の歴史や敷地内の構造などをCGを使って説明をしている映像を見ました。その後、展示室で和歌山城の歴史文化に関わる展示物を鑑賞しました。茶室の模型や刀などとても興味深いものが沢山ありました。また、その横には和歌山に由来のある偉人たちについての展示室がありました。陸奥宗光や松下幸之助はもともと知っていたのですが、南方熊楠や川端龍子、有吉佐和子など初めて知る人物もあり、新しい発見につながりました。展示室を出た後、天守閣に向かいました。道中、庭を見渡せるところがありました。池とその周りを囲む自然がとても綺麗でした。また、石垣とそこに生えている苔や、大きな木の下で日陰になっているところなどからはマイナスイオンが出ているかのような不思議な心地よさがありました。

天守閣の下に到着した後は自由時間だったため、私たちはまず昼食のお弁当を食べました。坂を登ってきたとい



うこともあり、景色が綺麗で風通しも良く、気持ちの良いひと時を過ごすことができました。配られた弁当は具材が盛りだくさんでボリュームがあったため、満腹で大満足でした。ご飯の後は天守閣へ向かいました。天守閣は360度ぐりと周りを見渡せるようになっており、和歌山を一望できました。景色を見ていたあたりで集合時間が迫っていることに気づき、急ぎ気味で向かったのですが、集合場所まで思った以上に距離があったため、かなり焦りました。大慌てでしたが結局は時間ギリギリには集合場所に到着することができました。

次に和歌山県立近代美術館に行きました。今回、和歌山県立近代美術館では原勝四郎展とトランスポーターの展示をしていました。まず原勝四郎の展示を観ました。最初に見たときはざっくり描かれた油絵だなと感じました。そこで学芸員の方が「近くで見たとときと遠くから見たときでの異なる印象を楽しんでほしい」とおっしゃっていたことを思い出しました。一歩二歩と下がってみると、近くで見るとは気づかなかった透明感や奥行きを感じることができ、とても驚きました。遠くから見ると逆に細部がしっかり浮かび上がってくるという不思議な感覚に一気に引き込まれました。原勝四郎の作品を見た中で特に好きだったのが、花瓶に入った花を描いた絵です。花瓶に入った花の絵は一つではなかったのですが、どれも、花弁や葉の重なりと奥行き、質感までもが伝わってくるような作品でした。光が当たっているところと影になっているところを油絵でざっくり繊細に描いているところがとても魅力的でした。次にトランスポーターの展示を観ました。この展示の中で一番目を引かれたのは上山鳥城男の作品でした。写真かと思うほど写実的で驚きました。また、色がはっきりしているところや深みのある配色がとても美しかったです。美術館を出た後、エントランス付近に設置されていた黒川紀章の中銀カプセルタワービルのカプセル部分を観ました。大学の授業で知っていたので、本物を見ることができて嬉しかったです。窓から内部の居住空間を見ると、スマートで近未来的な内装ではあるのに電化製品が



全てレトロだったため、過去と未来が混ざったようなSFっぽさを感じました。

今回の和歌山芸術鑑賞巡りでは、今まで知らなかった、和歌山と和歌山出身の偉人の魅力を知ることができるととても良い旅になりました。

(デザイン工学部 建築・環境デザイン学科)

淡路で学んだ自然

岡 空翔

今回は「淡路 減災・防災体験」に参加しました。この見学会は淡路島で行われました。淡路島といえば玉葱などの名産品で知られている島であり、兵庫県に属している島です。兵庫県から淡路島に行くために架けられている明石海峡大橋はつり橋として世界2位の大きさであり、全長は約4kmとなっています。観光地としても人気の淡路島ですが、1995年1月17日には明石海峡を震源とする兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）で大きな被害を受けました。淡路島では40秒間揺れ続けこの地震により地表にずれが起こり、断層が約10kmあらわになったようです。この断層は野島断層と言われています。この断層は国の記念物にも指定されています。今回の見学会では野島断層の一部を当時のまま保存している北淡震災記念公園に行きました。ここでは最初に語り部さんのお話を聞きました。語り部さんは当時は災害に対する準備が不足しており、どのように行動すればいいかわからなかったと語っていました。つまり、普段からの備えが必要だということでした。ほかにも被災地での過ごし方のコツなどを教えていた



だきました。語り部さんのお話が終わった後、記念館に入りました。ここは普段見ることのできない断層を見られるという興味深いところではありますが、それと同時に地震の恐ろしさも一目でわかることとなっています。

その他にも当時の写真や映像などが見られるところや地震の揺れを体感できる機械などもあり地震のことについて大きく学べる記念館となっていました。記念館の見学が終わった後に御食国というところで昼食をとりました。ここはスーベニアショップとの併設であるため昼食を取った後はお土産を買うことができます。淡路島ということだけあって玉葱関連のお土産が多かったですが、その他にも淡路島の牛のミルクを使ったお土産など、たくさんのお土産があったためお土産選びに時間がかかりました。昼食を食べ終わった後に兵庫県立淡路夢舞台に向かいました。ここはもともと関西国際空港などの土砂採掘場で、そのために失われた草木などの緑を再生した場所となっています。この見学会ではその中の一つあわじグリーン館というところに行きました。ここは日本最大級の温室となっており各エリアごとに世界の植物たちが展示されています。その中にはバナナの木やパニャなどといった聞いたことがある植物から日本では見られない様々な貴重種や、恐竜が食べていたといわれているもの、絶滅したと思われるものが自生しているところが発見された植物や、友好のあかしとして贈られた植物も展示されていました。私が一番興味深かった植物は皇后陛下の名を冠した花である「マサコウタイシヒデンカ」です。

この植物はシンガポールの植物園とあわじグリーン館との契約が結ばれた記念に贈呈されたものだそうです。シンガポールの植物園ではランを品種改良し世界のVIPなどの名前を付けた花を贈呈しているそうです。温室にはカフェがあり、植物を見ながらアイスを食べたり、飲み物を飲んだりできる場所もあり、休憩にも最適な場所となっていました。様々な植物を実際に目で見たり匂いを嗅いだりといったことができ、普段見ることのできないものが間近で見られるため、とても面白かったです。今回の見学会



は災害や植物といった自然について多くのことを学べる
見学会となっていて災害の恐ろしさや植物の美しさを学
ぶことができとても面白かったです。

(工学部 交通機械工学科)

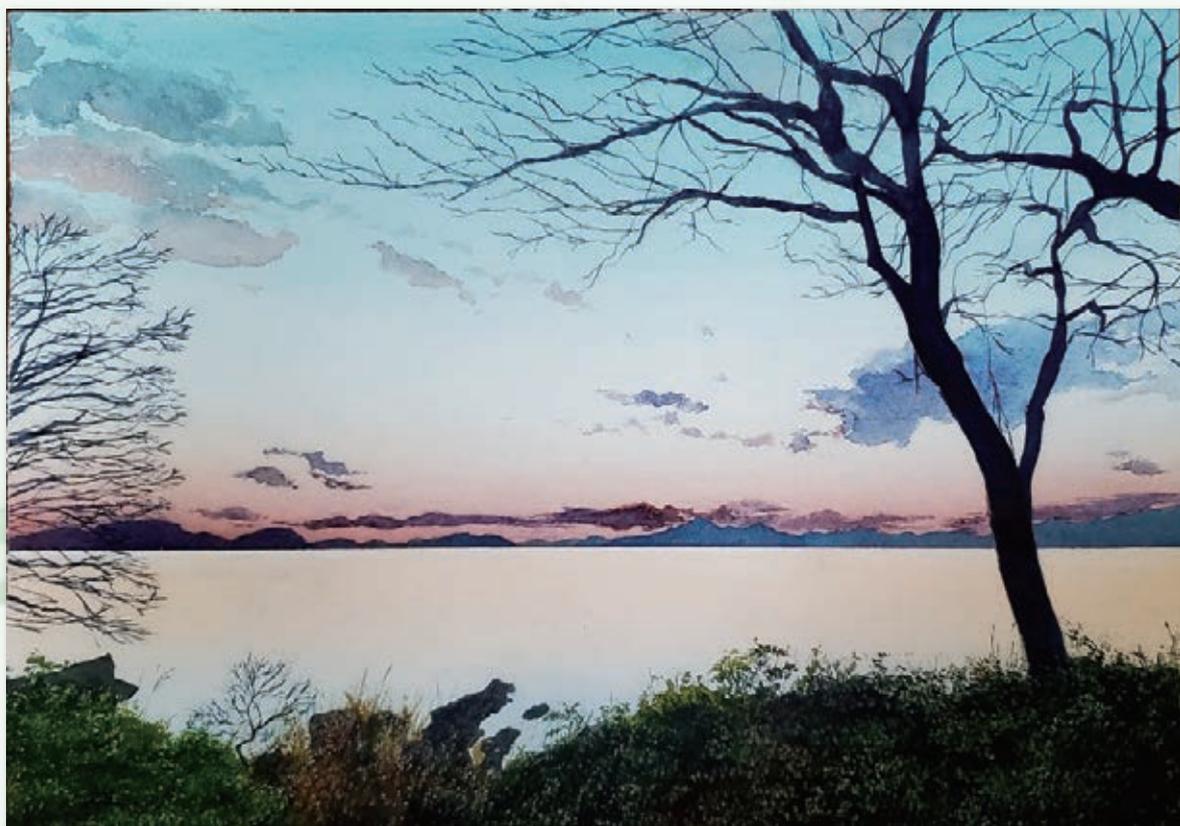


▲令和5年度 写真・イラストコンテスト(イラスト部門)応募作品
『REicon:01』
梅津 憂剛(工学研究科 環境デザイン専攻)

コンテスト報告

コンテスト報告

Excellent Works of the Contest



令和5年度 写真・イラストコンテスト(イラストデザイン部門)優秀賞作品
『Mother Lake』
西倉 匠惟(経済学部 経済学科)

コンテスト報告

令和5年度 企画委員長 笹岡 敬

第24回「ぶんかくコンテスト」

(長編部門／短編部門)

第8回「写真・イラストコンテスト」

(写真部門／イラストデザイン部門)

第6回「見学会プランニングコンテスト」

大阪産業大学学会では、例年、学部生・大学院生を対象に学会コンテストを実施しています。

ぶんかくコンテストでは、「長編部門」「短編部門」でそれぞれ募集し、多様なジャンルの小説の応募がありました。

写真・イラストコンテストの「写真部門」では、学内だけに限定しない風景写真を募集し、工夫を凝らして撮影された写真などたくさんの応募があり、「イラスト部門」では、パソコンを用いて制作された作品、AIを用いて制作された作品、水彩画などの応募がありました。

学生目線で企画された、様々なプランの応募がありました。優秀なプランは、次年度の学会主催の見学会として開催する予定です。

次年度以降も、学生がより興味をひくよう工夫を凝らしながら、継続していきたいと思います。

大阪産業大学学会
コンテスト2023
Osaka Sangyo University Academic Society
Contest 2023
大阪産業大学学会主催

Let's try!
日頃書き留めている文庫やイラスト、この一年の思い出の風景写真、
学会見学会キャラクターなどをこの機会にご応募ください！

応募期間
2023年9月21日(木)～10月13日(金)
締切厳守

優秀賞 賞状+Qooカード2万円分
奨励賞 賞状+Qooカード2万円分
努力賞 賞状+Qooカード1万円分
参加賞 Qooカード1,500円分
※賞状は郵送にて送付いたします。
(※...、賞状郵送費は別途です。)

見学会中の思い出
全文書や写真・イラスト
などで応募してみま
せんか？

【応募方法】
学会ウェブサイトの応募フォームよりご応募ください
【お問い合わせ先】
大阪産業大学学会事務局
【本部8階 産業研究所学術室内】
TEL: 072-873-3008 (内線: 3815)
MAIL: gakkai@crt.osaka-sandai.ac.jp

▲2023年度学会コンテストチラシ

大阪産業大学学会コンテスト2023実施結果

募集期間 2023年9月21日(木) ～ 2023年10月13日(金)

第24回 ぶんかくコンテスト実施結果

審査 書類審査
2023年9月21日(木) ～ 10月13日(金)
最終審査
2023年11月21日(火)
募集内容 長編部門・短編部門
応募件数 長編部門……………4件
短編部門……………2件



▲北田さん・笹岡企画委員長



▲北田流空さん

〈受賞者一覧〉

[長編部門]

【優秀賞】

北田 流空(経営学部 経営学科)

作品：後悔が先に立ったなら

【奨励賞】

中村 新太郎(工学部 都市創造工学科)

作品：魔法使いの自明

【努力賞】

近藤 聖那(国際学部 国際学科)

作品：宇宙からのお客さん



▲中村新太郎さん



▲近藤さん・伊藤幹事



▲近藤聖那さん

〈審査委員〉

村田好哉、張黎、ダニエル・チューバー、今中舞衣子、仲田秀臣、谷本英彰、井上博晶、
佐藤彰彦、藤岡芳郎、福森徹、齋藤立滋、李東俊、韓福相、本田雅子

(順不同、敬称略)

第8回 写真・イラストコンテスト実施結果

審査 書類審査
2023年9月21日(木) ～ 10月13日(金)
最終審査
2023年11月21日(火)
募集内容 写真部門・イラストデザイン部門
応募件数 写真部門……………30件
イラストデザイン部門… 9件

〈受賞者一覧〉

[写真部門]

【優秀賞】

難谷 康平(工学部 交通機械工学科)

作品：JAPAN RED

【奨励賞】

九里 孝行(工学部 機械工学科)

作品：木曾駒ヶ岳の頂へ

【努力賞】

孫 沢宇(デザイン工学部 情報システム学科)

作品：中国・銭塘江上空428メートル

細見 拓世(デザイン工学部 建築・環境デザイン学科)

作品：合掌造り



▲難谷康平さん



▲九里孝行さん



▲孫沢宇さん



▲細見拓世さん

[イラストデザイン部門]

【優秀賞】

西倉 匠惟(経済学部 経済学科)

作品：Mother Lake

【奨励賞】

眞木 稜介(デザイン工学部 環境理工学科)

作品：AI時代における大学教育

【努力賞】

河村 脩平(デザイン工学部 情報システム学科)

作品：放課後の教室



▲西倉さん・村田常任委員長



▲西倉匠惟さん



▲眞木稜介さん



▲河村脩平さん

〈審査委員〉

笹岡敬、吉田雅一、鶴田哲也、竹田和真、伊藤一也、和田明浩、姜文淵、
入江満、塩見剛一、瀬戸田克

(順不同、敬称略)

第6回 見学会プランニングコンテスト実施結果

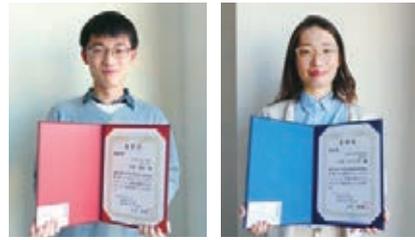
審 査	書類審査 2023年9月21日(木)～10月13日(金) 最終審査 2023年10月17日(火)
募集内容	日帰りで実施可能な見学会プラン
応募件数	3件



▲北河さん・笹岡企画委員長

【優秀賞】

宮城 陽裕(工学部 機械工学科)
プラン名：姫路城&明石市立天文科学館
見学会



▲宮城陽裕さん

▲北河七でし子さん

【奨励賞】

北河 七でし子(経営学部 経営学科)
プラン名：万博記念公園は太陽の塔だけじゃない!
視点を世界に広げよう

〈審査委員〉

笹岡敬、今中舞衣子、仲田秀臣、井上博晶、李東俊、吉田雅一、伊藤一也、和田明浩
(順不同、敬称略)

令和5年度 見学会プランニングコンテスト実施報告

2023年9月6日(水)

愛知 交通産業見学会 ～トヨタ博物館とフライトオブドリームズの見学～
14名参加



▲北田さん・中村さん・宮城さん・北河さん



▲孫さん・細見さん



▲真木さん・九里さん



▲雑谷さん・西倉さん・河村さん

後悔が先に立ったなら

経営学部 経営学科 北田 流空

後悔先に立たず、という言葉をご存じだろうか。

既に済んでしまった物事に対して後悔をしても意味が無い、取り返しがつかないという意味のことわざだ。

覆水盆に返らず、後の祭り、臍を嘔む……。

似た意味のことわざはあれど、これほど単純明快に後悔を表す言葉も他にあるまい。

この言葉、実に素晴らしいと思うのは私だけだろうか。

『後悔』は『後』から『悔』やむと書き、それが物事より先に起こるなんて在り得ないという満足の対義語、その言葉の何が素晴らしいのかと、もしかしたらそう思うかもしれない。

しかしいざ自分が大きな後悔に直面した時、この言葉は深く胸の内に落ちる筈だ。

あの時ああしていれば、この時こうしていれば……と。

その大小に拘らなければ、この世に人生で後悔をした事が無い人間等居ないに違い無い。

どのような偉業を書物に刻んだ英雄も、歴史に名を残せなかった無名の誰かも、今際の際に我が人生に一片の悔い無しと叫んだ世紀末覇者も、街中ですれ違う今を生きる一般人も。

誰一人として、後悔をせずに一生を終える事など出来はしない。

後悔なんてした事が無い、嘘を吐いた事が無い等と言っている人間が居たら、その人は間違い無く大嘘吐きだ。

嘘と後悔は、人間誰しものが通る道である。

——勿論、普段は使いもしない一人称で後悔についての持論を展開する、変人そのものである私も沢山の後悔をしてきた一人だ。

辛うじて後悔と言う言葉の端に引っかかったような些末事から、それこそ人生を左右するような一大事まで。

斯様な駄文を読んでくれている奇特な君達と同じく、後悔に塗れた身だ。

……いや、しかし後悔というのは結局気の持ちような訳であって、楽観的な人は小さく細かな後悔というものは持

ち合わせていないのかもしれない。

もしかすれば、私がただ後ろ向きな性格で、優柔不断な人物だからなのかもしれない。

ここまで語っておいて何を言っているのかと思うかもしれないが、私も何を書いているのか分からなくなってきた所だ。

そろそろ本題に入らなければ、話があらぬ方向へと行ってしまいかねない。

既に手遅れ感もあるが、確かに誰かに伝えたい事実があったのだ。

慣れないキーボードに嘔り付き、両手の人差し指で誤字塗れの文を打ち直しながら、それでも伝えたかった私の体験談。

夢のような、しかし確かに現実に在ったノンフィクションの物語。

——もし、後悔が先に立つような事があったら、どうだろうか。

「もし、もし、そこの貴方」

「もしかして俺の事ですか？」

「そうですそうです。緑のリュックを背負った黒髪の貴方の事です。実は私占いのようなものやっています、良ければどうですか？初回という事で代金はお安くさせていただきますし、あまりお時間も取らせません」

「いや、俺は……」

「そう言わず、さあさあ——決して、後悔はさせませんから」

最初に一言、どこか事務的な声を掛けられた時、応えてしまったのが俺の運の尽き……いや、寧ろ運が良かったのか。

とにかくこれが話の冒頭、俺の体験談の導入部分、起承転結の起に当たる。

明らかに怪しげな女に声を掛けられて、街中で配られるポケットティッシュやチラシの類いを断れない人種の俺は、手を引かれるままに強引に狭い路地の方へと誘われた。

これこそ占い師と言わんばかりの掛け布を頭に被り、これまたらしい衣装を身に纏い、そこに全てをぶち壊す、口元だけを覗かせる、上気した頬が笑顔と思しき仮面を被った二、三十代くらいの若い女だった。

逆によくここまで怪しく、胡散臭く出来たものだと思う。

寧ろここまで来ると不信感を通り越して感心する。

——ここは都会とも田舎とも言えない街の、人一人寄り付かなさそうな路地裏やビル同士の隙間が集まる場所。

隠れ家的というかアングラというか何というか、別世界に繋がっていても驚かないような仄暗い場所が好きだった俺は、いつものようにいつもの場所を真昼間から徘徊していた。

別に家に居場所が無いとか大学に行きたくないとか、そんな深刻な何かを抱えている訳では無く、ただ単に興味本位の趣味の一つだ。

こちら一帯は既に探索済みの場所が多く、閑古鳥だって寄り付くまいというような、隠れ家的飲食店をもう幾つも発見してきた。

故にもう一、二回の探検で来る事が無くなる、そんな場所だったのだが……

「すみません、お姉さん。すみません」

「はい、なんでしょうか？」

「お姉さんっていつからここで占いの客引きやられてるんですか？これまで何回か来て一回も見た事ないんですけど」

ど」

「いつからも何も、私はずっとここでやらせてもらっていますよ。それから占いではなく占いのようなものです。あと私のお姉さんではなく、降魔智里と言います。魔が降ると書いて"ごうま"、です。智里の方はいたって普通ですが」

「……えっと、それ源氏名なやつですよ？」

「いえいえもちろん本名ですとも。全国に十人といない珍名ですが、れっきとした本名です。岡山に多いんですけど、調べてみますか？」

「いや、別に……」

流石に手を引かれたままだが恥ずかしかった俺は、自分で歩くからと手を振り解いて大人しく背中を追って歩いていた。

それにしても降魔は無い、あまりにらしすぎる。

彼女の言う通り調べれば確かに実在するのかもしれないが、だからといってそれが本名であるとは限らない。

それに証拠を見せてもらう程、真偽に興味が無かったというもある。

俺は右ポケットに入っているスマホを取り出す事はせず、見慣れた景色に目を配っていた。

やはりと言うべきか、百メートルほど歩いた所で俺は確信する。

この路地には見覚えがある。

俺はあまり記憶力の良い方では無いが、こうした状況ではちょっとしたものだ。

その先の角の右を見れば、今にも潰れてしまいそうな寂れたラーメン屋がある筈だ——ほら当たった。

しかし当然目の前を歩く降魔さんは右には曲がらず、迷い無く左へと歩を進めていく。

ここで違和感。

この辺りは既に探索済み、先の分かれ道でラーメン屋

では無く反対方向に進んだ場合、行き当たりにはまた曲がり角があるが、その先は直ぐに行き止まりだった筈だ。

この人さては迷ってないか？

背筋を伸ばして歩く降魔さんに不信感を覚えていると、やがて件の行き当たりへと辿り着き、そして曲がり角の先には行き止まりが――

「――無い」

俺の目の前にあったのは……いや、無かったのは？この場合どっちだ？

……とにかく、そこにはある筈のものが無く、無い筈のものがあつた。

――前に一度見た行き止まりは霧と消え失せ、代わりにこれまた胡散臭い占いの館があつた。

館とは言っても屋台のようなもので、その大きさは成人男性の平均身長と同じくらいの俺が、両手を目いっぱい広げたのと同じくらいの横幅。

言ってしまうと、そこらで見ると絶対行政の許可を得ていない露店占いという感じ。

黒魔術に使いそうなイメージの爬虫類がぶら下げられていたり、何語とも判別のつかない貼り紙があつたり、得体の知れない瓶に詰められたナニカがあつたり。

綺麗などとはお世辞でも言えない、雑多な印象が妖しい雰囲気を出している。

そんな店が目の前にあつた。

というか、これどうなってるんだ？明らかに前より行き止まりが後退してるんだが……。

俺はごくりと口に溜まった唾液を飲み込む。

頭皮からは暑さとは違う理由でじわりと汗が滲み、手は無意識に握った汗をズボンで拭う。

「さ、着きましたよ。そこの席にどうぞ、掛けて、下さい」

「それ大丈夫ですか？通れないんじゃないか……」

「お気に、なさらず。いつもの、事で、すから……」

降魔さんは壁のスレスレを通るように奥へ奥へと進んで行くが、明らかに苦しそうだ。

ただでさえこんなに狭苦しい通路に露店を出しているのだ、そりゃ奥に行く店側の人間は大変だろう。

「ああ！」

「ほら言わんこっちゃない」

俺は口の中だけでそう呟き、聞こえないくらいの溜め息を吐く。

盛大な音と共に積み上げられた小物がひっくり返され、狭い路地に散乱した。

俺は面倒だなと思いつつ、さりとて傍観している訳にもいかず荷物を地面に置き、身動きの取れない降魔さんの代わりに落ちた物を拾っていく。

正直こういうものにはあまり触りたくないのだが、致し方無い。

すいませんすいませんと言いながらなんとか通り抜けられた降魔さんと二人で拾う事数分、再度飾られる事無く小物は店の奥へと引っ込み、気持ちすっきりとした露店を挟み俺と降魔さんは向かい合わせで座る。

勧められた椅子は硬くて座り辛く、この空間独特の空気と相まって妙に落ち着かない。

ソワソワするというか居心地が悪いというか、あまり長居したい感じじゃない。

早々に適当に、運勢でも占ってもらって帰ろう。

「それで、このお店は何を占ってくれるんですか？今年の運勢とか恋愛とか？」

「ですから占いではなく占いのようなもの、ですよ」

「……さっきから気になってたんですけど、占いのようなものってなんなんですか？占いでは無いと？」

「私も何と言えればいいのか、実の所分かっていないんで

す」

「はあ」

「私のやっているサービスを説明するのにピッタリの言葉がないもので、初見のお客様には仕方なく占い師を名乗らせていただいているだけなんです。一応私が名乗っている通り名のようなものもあるんですが、そこの看板に書いてあるでしょう？」

「……看板なんて無いんですけど」

「あれっ？あつ、店の奥に仕舞ったままでした。すぐに持ってきますね」

……何と言うか、降魔さんは所々で抜けた人らしい。

店の物をひっくり返した事といい、看板を忘れていた事といい、更に言えばここまでの道のりは最短距離でも無かった。

多分、次来る事があれば俺の方が早く着けるだろう。

もう二度と来る事も無いだろうが、色々と台無しにする人だ。

「お待たせしました。これを、そちらに」

「あ、はい。……なんだこれ、『悔やみ屋』？」

「ええ、私はこの場所で『悔やみ屋』をひっそりとやらせて頂いています。——ようこそ、『悔やみ屋』へ」

両腕を広げて歓迎の体勢を取る降魔さんをよそに、俺は手の中の看板へ視線を落とす。

手渡された看板には確かに綺麗な文字で『悔やみ屋』とあり、その横には『あなたの後悔教えます』、『お値段は要相談』との文字が躍っていた。

『悔やみ屋』なんて見た事も聞いた事も無いが、どうやらただの店の名前というだけでもなさそうだ。

そういう職業という事だろうか。

確かにこんな名前では——

「初見のお客様は寄ってきて下さいませんでしょう？」

細めた目で覗き込まれ、思わず顔を仰げ反らせる。

俺の心を読むような降魔さんの発言にどきりとするが、これくらい一定の技術を持つ占い師からすれば苦でも無い事だと思い直し、そうですねと生返事を返す。

この手の心を読むような占い師の九割九分九厘は、テレパシー等という実在すら疑わしく、胡散臭い代物では断じて無く、確立された技術によって成り立っている。

占い前のアンケートなど事前情報から、さも真実を言い当てたかのように見せるホットリーディング、表情や格好や仕草や会話など、様々なその場の情報からさも言い当てたかのように見せるコールドリーディング。

前者は情報収集によって、後者はやや場数を必要とするが経験と勘によって、人の心を読んだように見せる事を可能にする技術だ。

あなた、内気な性格だとよく言われませんか？——それは見た目で分かるからよく言われるんだよ、あんたでも誰でも分かるだろう。

あなた、何か大きな悩みを抱えているのではないですか？——そりゃ人生、誰しも一つや二つでかい悩みくらい持ってらるだろう。

あなたにはこの先大きな不幸が待っています——この先交通事故やら火事やら、人生で何かしらの不幸くらいあるだろう、何を当たり前の事を。

親が寿命で死んだりしても、それだって立派な不幸だ。

俺は誰にでも当て嵌まるような事を平気で言い、平気でラーメン数杯分の料金を要求してくる詐欺紛いの占い師を、これまでに何人も見てきた。

きっとこの降魔さんも……

「それでは始めましょうか。と、その前に当店の詳しい説明などは必要でしょうか——須郷健斗さん？」

その名前を聞いて、俺は不覚にも肩が跳ねたのを実感した。

口元以外を覆う仮面の下に、凶星でしょうという表情を浮かべているのだろうと思いつつ、俺は重い口をゆっくりと開く。

何故なら、この人が口にした名前は――

「あの、俺茅場って言うんですけど……」

「ええ!？」

俺の名前ではなかったからだ。

「え?でも貴方のリュックには確かに須郷と……」

「あー、これ友達から貰い物なんですよ。ほら、中学とか高校の行事で自分のカバンに名前書いたりするのあったじゃないですか。その時のを貰って使わせてもらってるんで」

「か、変わってらっしゃるんですね」

多少自分が人と違う事くらいは自覚しているが、目の前のこの人だけには言われたくない。

流石の俺も、降魔さんより変わっているという事は無い筈だから。

しかしやはりと言うべきか、この人もアングラにありふれた占い師の一人でしかなかったらしい。

場所と職業に似合わない声だけ気になるが雰囲気はあるし、俺も多少浮足立っていただけに残念だ。

降魔さんはこほんと咳払い。

「それで、説明は必要ですか？」

正直期待していた感じと違っていた為帰りたいのだが、折角ここまで来た事だしと自分を無理矢理に納得させる。

それは誰に張るでもない、しようもない自己完結した意

地だった。

「じゃあ、お願いします」

「分かりました。――では『悔やみ屋』について説明します前に、茅場さんは後悔先に立たずということわざをご存じですか？」

「はあ、まあ」

「一応説明させていただきますと、既に済んでしまった物事に対して後悔をしても意味が無い、取り返しがつかないという意味のことわざですね。そして当店の行うサービスは正にそれに関するものです」

「はい？」

正にそれ?それってどれだ?

話し始めすぐに引っかかった俺をよそに、降魔さんはペラペラと説明を続けていく。

「『悔やみ屋』とは、お客様が近い内に抱える事になる後悔を物事が起こる前にお知らせし、限りある人生を少しでも後悔の少ないものにしていただくためのサービスを提供するお店です。お値段はお客様の後悔の度合いによって要相談。高級寿司店のネタが時価になっているようなものだと思います」

降魔さんの言っている事が、俺は多分半分も理解できていない。

俺の後悔を事前に教える?それは何の冗談だ?それが未来予知と同義だという事を、この人は分かって言っているのか。

いや、普通に人の運勢を占うのだって未来予知なんかじゃなく、情報と観察による紛い物だ。

後悔を教えると言ったって、所詮似たようなものでしかないだろう。

あと、例えるにしても高級寿司は無い。

「……俺は既にここに来た事を後悔しかけてるんですが」

「あはは、ご冗談を。私は言いましたよ？——決して後悔はさせませんと」

——心底ゾツとした。

ただでさえ秋も半ばで肌寒い路地で、更に一段階冷え込むような感覚に、俺は怖気を覚えた。

さっきまでのどこか抜けた降魔さんが嘘のように、今俺の目の前には『悔やみ屋』という一体の生き物が存在している。

元から感じていた常外の雰囲気と、ムードを台無しにするやや事務的な声が不合理な程に組み合わせたり、精神が呑み込まれる。

俺の口は最早思い出したように呼吸をするだけで、声は完全に奪い取られていた。

見えない筈の仮面の奥の瞳に、俺の視線が絡め捕られる。

「それで、どうされます？茅場さんの後悔、ご覧になりますか？……茅場さん？」

「え？あー、えーと……それじゃあ、折角なんで」

こくりと頷くこの時の俺は、間違い無く正常な判断が出来ていなかった。

普通なら、こんな得体の知れない女から逃げていて当然で、正しい判断だ。

いや、仮に俺が冷静な状態でも、やはり頷いていただろう。

だってこんなにも心が躍る状況で、この俺が逃げる訳が無いからだ。

「ご利用ありがとうございます。それでは……」

俺の言葉を聞いた降魔さんは口元だけで分かるくらいに嫣然と微笑み、それから足元から取り出した物を机の上へと置いた。

「それでは利き手でこの水晶に触れてください。そこから先は私の指示通りに」

小さな座布団のようなものの上に乗った、円球の透き通った水晶玉。

占いと聞いてイメージする代表格の登場に、俺は困惑を隠し切れない。

「分かります。分かりますよ茅場さんの言いたい事は。胡散臭いとか、こんなもので、とかそういうのでしょうか？まあ、この水晶に関しては何の変哲もありませんからね。ご存じですか？占い用の水晶ってネットで買えるんですよ、一万円ちょっとくらいで。本当に便利な世の中になりましたよね。けれどご安心を。この水晶はあくまで雰囲気作りであって、必須の品ではないのです。私がここにいる、貴方がここにいる。それさえ揃えば水晶玉だろうとビー玉だろうと、関係はありませんから」

ほんの少しだけ先までの雰囲気を取り戻した降魔さんに、しかし俺は安心感というものをまるで得る事が出来ないうでいた。

それも一度見れば忘れられない、人の心を絡め捕る魔性のせいだ。

「——」

緊張のせいで乾く唇を軽く舐め、生唾を呑み込み、俺は降魔さんの指示通りに右手で水晶玉へと手を伸ばした。

ゆっくりと触れたそれは秋の季節にひやりと冷たく、想像通りのすべらかな感触をしていた。

「手を触れましたら、次は意識を集中させるように水晶玉を見つめて下さい。そうすれば茅場さんは自分自身の後悔

を見る事ができるでしょう」

「見つめるだけ、ですか？」

「ええ、見つめるだけです」

そのあまりにも単純な工程に拍子抜けしつつ、俺は言われた通り水晶玉を見つめる。

が、暫く経っても特段何かが映るでも無く、自分の見慣れた顔が歪んで見えるだけだ。

何か間違えただろうか、このままでいいのだろうかと考えていると、ずっと白魚のような手指が視界に映る。

ぎょっとして顔を上げると、その手は降魔さんの肩に繋がっていて、丁度二人で水晶玉を持っている形になっていた。

柔らかく微笑む仮面の奥、深淵から覗く黒瞳と初めて視線が絡まり、それが何だかいけない事をしているかのようで気恥ずかしく、視線を逸らすように再度視線を落とす。

するとなんだろうか、先程まで何の変哲も無かった水晶玉の奥がぐるぐると渦巻くように感じられ、不思議と目が離せなくなって、次第に、俺は――

「おかえりー。あんた帰ってたんなら声くらいかけなさいな」

「……ただいま」

湯沸し器のうるさい居間に入ると見慣れた寝姿、だらけ切った母がテレビを見ながら呆れたみみたいな声を出した。

時間はまだ昼だが、そういえば今日はパートが休みなのだったか。

轟々とやかましい湯沸し音に対抗する為か、やけに音量の大きい木曜昼の帯番組からは、薄ら寒い笑い声が響いていた。

子どもの頃はよく見ていたこの番組を、つまらないと感じるようになったのはいつからだっただろうか。

「今日は学校どうだった？」

「そんな毎日変わるもんじゃないし、大体今日は授業無
いって言ってあったし」

「あーそうだったっけね。そうそう、今日買い物行くけど
なんか買っておいて欲しいものある？」

「特に無し。いってら」

どうせ親がいるならもう少し外にいればよかったと損をした気分になりつつ、俺は適当に返事を返して早々に二階の自室へ引き上げる。

部屋に入ってすぐにリュックを放り、さりとして着替える事はせずにベッドに横になり、真っ先にスマホのゲームアプリを開く。

丁度昼から引きたいガチャがあって、着替える手間すら惜しかった。

逸る気持ちを押し止め、期待と焦燥を込めつつガチャへと臨んだのだが……

「ちっ……」

結果は惨敗、引き続けている内にムキになってきて、結果こつこつ溜めてきた石を全消費するという最悪の結果となった。

「はあ……」

虚無感と脱力感と共にスマホを放り投げ、嘆息して目を閉じる。

これが普段なら引き際を誤ったりしないのだが、今日はどうにも熱くなり過ぎたらしい。

自分のせいとはいえ、すり抜けすら無しとは悔やんでも悔み切れな——

「……結局何だったんだよ、あれ」

そこまで考えてふと、脳裏に特徴的が過ぎる姿の占い師擬きがよぎり、さっきよりも重苦しい溜息を吐いた。

——結論から言えば、俺は自分の後悔とやらを見る事は叶わなかった。

五分、十分と居心地の悪い時間を過ごしたにもかかわらず、水晶玉はうんともすんとも言わず沈黙を貫いたまま。

焦る降魔さんが撫でてでもさすっても、当然ながら何かそれらしいものが冷たい鉱物に映る気配は無かった。

申し訳ございません、いつもならこんな筈は、お代は結構です。

そんな謝罪とも言い訳ともつかない話をする降魔さんをよそに、俺は騙されたという怒りでは無く、やっぱり何も無かったのかという落胆に沈んでいた。

結局の所、俺は『悔やみ屋』というものに期待していたのだ。

試せど巡れど外ればかりの占い師、最初は探検のついでに楽しんでたそれらも、占いの仕組みを調べ理解してしまえば、陳腐でありきたりな偽物が顔を覗かせる。

頭では分かっているのだ、占いに本物も偽物もありはし

ないと。

占いとは極端に言ってしまうえば、後付けの事象からの中したと錯覚するバーナム効果でしかない。

朝のテレビでは数分のコーナーが組まれ、雑誌では片隅のコラムに載り、良い結果の占いは信じ都合の悪いものは信じない、その程度のものでしかないのだ。

けれど、期待してしまうではないか。

明らかに記憶と異なる路地裏、行き過ぎているとしか思えない格好、唯一無二の謳い文句、そして体の芯が凍えるような、妖しくも惹かれるその眼。

普段感じない感覚があれば、特別な事象の前触れと期待したって、別に。

「……けど」

けれど期待は裏切られた。

占い師ガチャは大外れ、期待も大外れ、時間も気力もどぶに捨てる羽目になってしまった。

意図せず、噛み締めた奥歯に力が入る。

ぎりぎり和不快な音が鳴り、余る気持ちを震える吐息に乗せて吐き出す。

今更、怒りを覚えた所で何にもならない。

ただでさえ無駄な時間を過ごしたのだ、これ以上『悔やみ屋』のせいで不必要なエネルギーを消費したくない。

「……今日は疲れた」

この短時間でもう何度目かの溜息を吐き、左の前腕で目を覆うようにして脱力した俺は、じわじわと穏やかな波のように押し寄せる睡魔に身を預け、ゆっくりと疲労した意識を手放した。

あんなにも怪しい女に、ついて行くんじゃなかったと後悔しながら。

「……ああ……もうこんな時間か」

存外疲れていたらしい。

目を覚まし、軽く欠伸をしてふと時計を見やると、短針は五の数字を指し示していた。

時間で言えば三、四時間は寝ていただろうか、手の甲で目を擦りつつ上半身を起こす。

こんなに長い間眠るつもりは無かったのだが、過ぎてしまった事は仕方が無い。

目覚ましでも掛けておけばよかったかと軽く悔みつつ、ベッドから立ち上がりリュックから飲止のペットボトルを引っ張り出す。

生温い緑茶で渴いた喉を潤しつつ、空になったペットボトルを既に一杯のゴミ箱に押し込む。

外着を脱いで洗濯籠に放り込み、部屋着に着替えてからついでに散らかった部屋を片す。

そうして小綺麗になった部屋を眺めて小さな達成感。

これが続けば言う事はないのだが、どうにもサボりがちになってしまっていけない。

ゴミ箱の中身をビニール袋に纏め、代わりに新しいビニール袋をゴミ箱に敷く。

あとはこれを下に持っていけば完了だと、部屋の外に出て初めて気付いた。

下の階がどたばたと騒々しい。

そういえば、買い物に出かけた母もそろそろ帰っている頃合いか。

この騒音も、飽き性な母が効きもしない踏み台昇降でもしているせいだろう。

それ専用の台まで買って置いて長続きせず、そのくせこうして時折思い立って始めるのだから厄介極まりない。

一言文句を言ってやるべく、苛立ちを隠しもせずに音を立てて階段を降り、居間の扉を一気に開け放つ。

「あれ、父さん？仕事は？」

しかしそこに母の姿は無く、代わりに額に汗を浮かべて家の中を駆け回る父親の姿があった。

「急いで帰って来た。お前も準備を済ませてすぐに行くぞ」

「行くなってどこに」

「お前、携帯は見てないのか」

父の正気を疑うような声と表情に、何故かその時の俺は無性に腹が立った。

だからその腹の中の感情のままに、吠える。

「だから何がだよ！」

「母さんが買い物の途中で事故に遭った！俺が帰ってすぐに病院に行くから準備しておけと連絡したろう!!」

「は、あ……？」

そう反撃されて、意表を突かれて茫然と声を漏らす。

聞いた事の無い怒鳴り声で、見た事も無いくらい切羽詰まった表情で、これだけ必死な様子の父は初めて見た。

別に普段から愛想の良い部類の人間では無いこの人が、より一層余裕を失って目の前にいる。

その姿が、まるで知らない別人のようで。

ぐるぐる、ぐるぐる、耳の奥で目が回るみたいに、胸には鉛が詰まる。

何も、考えられなかった。

「……………」

そこから先の事は、自分でもあまり覚えていない。

茫然自失、夢現。

当時の状態を表す言葉はそう多くないが、この言葉程的確に表す言葉もまた無いだろう。

だというのに、この体は自分が自分でないかのように受け答えをして、淡々と物事をこなしていくのだから不思議だ。

自分の事だったにもかかわらず、全てはどこか他人事の

ままに進んでいった。

——結局、母は助からなかった。

死因は車に撥ねられた後の頭部打撲による脳震盪、医者には打ち所が悪かった、というありきたりな理由を聞かされた。

その後遺体にも会わされたが、他に外傷はなく体は綺麗なものだった。

そうして亡くなった母を見ても、泣き崩れる父を見ても、俺は落涙も動揺も無く、変わらず冷静なままだった。

これなら、家で父から母が事故に遭ったと聞いた時の方が余程気が動転していただろう。

あの段階ではまだ生死も聞いていなかったのに、だ。

存外薄情な人間だったのだろうか。

母と、父と、俺と、家族水入らずの静かな部屋でただ一人、そんな思考をしまっている事が何より辛かったかもしれない。

家での真っ白な思考とは対照的に、父が書類を書いている病院では無駄で無益で無用な考えが止めど無く湧いてきた。

葬式はどうしようとか、大学に届け出は要するのかとか、今日の夜は何を食べようとか、そういえば明日からのご飯はどうなるんだろうとか、そういう。

こんな人でなしだ、人以下の怪物だ。

考えては自己嫌悪、考えては自己嫌悪の繰り返し、そんな自分が嫌になってまた自己嫌悪。

そんな自傷行為にも似た現実逃避をする内に、次第に時間の感覚は曖昧になっていく。

ほんの五分ほど経ったかと思えば、父が書類を書き終えて俺を呼びに来た。

どうやら、一旦家に帰るらしい、帰れる、らしい。

「——」

玄関——見慣れた三足の靴を見て、目を逸らす。

居間——母が愛用していたマグカップの中身は三分の一程残ったまま、温度を失って冷たく佇んでいる。

台所——物の配置すら判然としないそこは母の残滓が

強く、マグカップを洗おうとしていた俺を拒んでいるように見えた。

家の中のそこかしこに、母がある。

三人で住んでいた家なのだから、当然ではある。

それ程までに、家の中には母が生きていた。

今すぐに玄関から母が帰って来ても、然程驚く事は無いだろう。

けれど頭の中の冷静な部分が、その醜い願望を否定する。

それは死者への冒瀆だ、俺も母も、それを許しはしない。

悲しくはない、俺の中には、ただただ疲労だけが残っていた。

家族の仲は特別良好でも陰悪でも無く、まあ普通だったと思う。

聞かれた事には答えるが、さりとて共通の趣味があった訳でも無い。

ヒエラルキー的には母が強かったが、決して何かを強制してくる事も無く自由にさせてくれていた方だろう。

大学までの進路も全て自分で決めて、口出ししてくる事は一度も無かった。

日常的に一日どうだったかを聞いてくる所だけは、少し鬱陶しいと思っていたが。

——もう少しちゃんと喋っておけばよかった、そんなならない後悔が今更になって脳裏をよぎる。

「……………」

強く、強く、唇を噛む。

後悔……後悔……後悔、後悔、後悔後悔！

こんな事、今まで一度だって考えた事は無い、だってあまりにも虫が良すぎるだろう。

あんなに適当に返事をしておいて、あんなにおざなりに接しておいて、死んだ後にこれか。

大切なものは失って初めてその価値を知るとでも言うつもりか、ふざけるな。

一度亡くした者はもう二度と戻らない、そうだ、後悔し

でももう遅い、遅過ぎる。

気付かなかった価値のあった時間を、今しがた後悔した時を、俺は浪費し続けた、その結果がこれだ。

あまりに滑稽、何たる無様、一体どれだけの愚行を積み重ねれば気が済むというのか。

自分の愚かさ、そのまま憤死してしまいそうな程苛烈な怒りが込み上げる。

爪が食い込む力で手を握り込み、振り上げた両の手を自らの膝へ叩き付ける。

裁判でも神父でも神そのものでも、何だったら悪魔でもいい、誰でも良いから俺を裁いてくれ。

あまりの怒りに眩暈がして、温度の無いフローリングに膝をつき、顔を掌で覆って懇願する。

尽きない怒りを喘ぐ呼吸に乗せ、荒々しく吐き出し続ける。

けれど、そんな事をして何もう変わりはしない。

過去や未来どころか、今だって何も。

自分という存在は、何時如何なる時も無力だ。

何でも出来る気になって、本気を出せば大抵の事は何とかなるなんて根拠の無い自信を本気で信じて、そうして貴重な機会をふいにするのが俺だ。

そうして後になって後悔する、救いようの無い大馬鹿だ。

気分が悪い、立ってられない位の眩暈と吐き気にどうにかなくなってしまいそうになる。

呼吸が浅い、身体から力が抜けて、土下座するような体勢になってしまう。

だがこんなにも醜悪な謝罪は無い、本物の土下座の方が余程見れるに違いない。

尽きない思考に頭は乗っ取られ、正体不明の不調に身体は動かず満身創痍、本格的に意識が薄れてきた。

世界がグルグルと廻り、視界が真っ白に漂白されていく。

自分が自分じゃなくなって、あれだけ湧いていた思考も綺麗さっぱり。

最後に、思った、事は、—————

——おはようございます、とは言っても昼ですが。

「あああああああ !!」

自分の悲鳴と共に飛び起きる、そんな体験をしたのは初めての事だった。

息が荒い、首が痛い、心臓は喉から飛び出るのではないかという程激しく心音を響かせ、目の奥がチカチカする。

どうやら座ったまま突っ伏す形で寝ていたらしいというのは、最初に認識した現状だった。

その次に認識したのは、どうしようもなく酷い吐き気。

「う……え……」

そのまま戻しそうになったが、ここではいけないというブレーキが働き、唾液ごと吐き気を呑み下す。

一点を見つめたまま浅い呼吸をしていれば、次第に吐き気は収まってきた。

既に手遅れな気もするが、これ以上見苦しい姿を見せる訳にはいくまい。

ふと、そこで違和感、見苦しい姿を誰に見せる訳にはいかない？

「戻られたようですね。その様子ですと、かなり深刻な内容だったみたいですが。たまにいらっしゃるんですよね、こうして人生を左右するような後悔をご覧になる方。水くらいならありますが、お飲みになりますか？」

そのあまりに平然とした声、その事務的に雰囲気壊す声、そしてその不思議と耳から離れない、声。

現実を信じられないまま、ゆっくり、ゆっくりと顔を上げる。

耳だけでは信じられない、ならば瞳に映った光景こそが真実だ。

その、視線の先には——

「何やら死者でも見たようなお顔ですが、茅場さんの見たい後悔は見られましたか？」

——新品のペットボトルを手に差し出し、首を傾げながら嫣然と微笑む仮面の女の姿があった。

こくりと喉を鳴らし、問う。

「降魔、さん……？」

「ええ、何か疑うようなことがおありで？」

「いえ……いえ」

そこまで来て、俺はようやくと現実に追いつく事が出来た。

水晶玉に触れたとて何も起きず立ち去った——あれは辻褃合わせの為の偽の記憶だ。

期待を裏切られた落胆も、掠りもしなかったガチャも、色を失った母の顔も、頹れる父の姿も、全部全部紛い物だった。

現実では水晶玉に触れて暫くして、きっと降魔さんと一緒に触れていたあたりで俺は眠りに落ち、そこで夢を見ていたのだろう。

どうしようもなく瞼の裏に焼き付いて離れない、あの最悪の悪夢を。

「いや……」

悪夢と断じてしまうには、俺はまだ現状を何も知らな過ぎる。

故に聞こう、答え合わせだ。

「降魔さん。俺がさっき見たのは、未来、なんですか？」

「正確に表すのであれば茅場さん自身の後悔、と言う他にはないのですが、茅場さんが経験されていない光景だったのなら未来ですよ。確定した、ね？」

意味深な言葉を紡ぐ唇を見た瞬間、脳裏に最悪の想像が浮かび上がった。

「確定したって事は……未来は、変えられない……？」

その答えを聞くのが、ただただ怖い。

一度聞いてしまえばもう取り返しがつかないという事実に、呼吸が落ち着かない。

覚悟の定まらないまま、俺は答えを手にする。

「もちろん何も手を出さなければ後悔の通りに。ですが確定していたのは後悔を見たその瞬間までです。既に後悔を知った今はその限りではありませんのでご安心ください」

「そう、ですか。良かった……」

「あ、時間的制限だったり病気だったりはどうにもなりませんからね？私も神様ではありませんので」

そう冗談めかして答える降魔さんの態度が、不覚にも安心の一助となって今は素直にありがたい。

望んでいた回答は得られた、未来とやらは変えられる代物らしい。

そっと胸を撫で下ろしていると、降魔さんが咳払いをして居住まいを正し始めた。

「それではこうして無事職務も果たせたことで、報酬のご相談と参りましょうか」

にやりといやらしく歪められる唇を見て、すっかり忘れてしまっていた代金の事を思い出した。

降魔さんの話では後悔の内容に応じた金額との事だったが、不思議と法外な値段への怯えは全く無く、泰然とした姿勢で臨む事が出来た。

それはきっと、既に自分の中で覚悟が極まっていたからだろう。

「分かりました。おいくらでしょうか」

「今回茅場さんにお支払いいただく金額は——十万円
ちょうどとなっております」

「じゅ……っ！」

絶句。

十万円、覚悟はしていたが、正直に言って無理な金額
だ。

こちとら常時金欠の大学生、学生の本分を果たしつつ
それだけの金額を貯めるのに、一体どれだけの時間と労
力が必要になるのか。

軽く想像しただけでも気が滅入る。

その数瞬の沈黙を喪心と取ったか絶望と取ったか、降
魔さんが幾分トーンを下げた声で口を開いた。

「——後悔、していますか？」

「え？」

「何も分からないままに連れて来られて、辛い後悔を見せ
られて、その上大金を要求される。こんなところに来るべ
きじゃなかったと、後悔をしてはいませんか？」

不意に、そう語る仮面の奥に叱られる子供じみた、不安
気で幼気な顔が見えた気がした。

ああ、何と都合の良い幻覚、何たる幻想か。

装着された仮面は相も変わらず冷たい微笑を刻み、お
よそ人らしい感情等見えてこない。

ふと、夢の中での最後の言葉が口を突いて出た。

「——次は後悔の無いように、だ」

「？」

「後悔なんて、ある訳無いじゃないですか。降魔さんが言っ

たんですよ、『決して後悔はさせません』って。あなたの言
葉は正しかった。感謝こそすれ、後悔なんてするはず無い
です」

「……………」

「お金も必ずお支払いすると約束します。流石にすぐには
無理ですけど、どれだけ時間が掛かっても必ず。それが俺
の出せる誠意と感謝です」

我ながら何とも青臭く、小っ恥ずかしい物言いをしたと
思う。

だがどれだけ恥ずかしくともこれが偽らざる自分の本
心、ありのままの言葉なのだから仕方が無い。

しかしこうもだんまりを保たれると話は別、羞恥に体が
痒くなってくる。

と、

「ありがとう、ございます……。こんなにも気持ちのいい言
葉をいただいたのは初めてなので、少し照れてしまいます
ね。おほん。そのお礼と言っては何ですが、茅場さんには
一つ言葉をお送りしましょう」

そわそわとして耳が赤い事実を隠すように咳払い、降魔
さんの唯一覗く口元が弧を描く。

「——しない後悔よりする後悔、ですよ」

経歴を知らない、事情も知らない、それどころか顔すら
見えないこの一言。

そんな、拍子抜けする程にあっさりとした言葉を返した
降魔さんの仮面の下は、きっと十万円以上の価値がある
笑顔を浮かべているのだらうと、俺は心の底から満足し
た。

秋晴れの遠い空を見上げて、コンクリートジャングル
の中を歩く。

こんなにも閉塞的な環境下で、しかし俺の心はかつてない程に突き通っていた。

理由は明白、これまで目標を持たずに持て余していたリソースを割り振る、身命を賭す誓いを得たからだ。

守りたい誓約と破れない誓約、両者に大きな違いは無く、二人のものか自分自身のものか程度の差異。

いずれにしろ難しく考える必要は無く、ただどちらも守り通す、それがこれまで受けてきた恩義への俺なりの報い方だ。

差し当たっては、

「今日の買い物ってどこに行くんだっかな」

希望と言葉と、きっとそれ以上の何かを手に、俺は光の中へ一歩を踏み出した。

2023年9月17日



▲令和5年度 写真・イラストコンテスト(写真部門)努力賞作品
『中国・銭塘江上空428メートル』
SUN ZEYU(デザイン工学部 情報システム学科)

講演会報告



講演会報告

Lecture Reports

「ガトウヨシオ」のデザインのココロ



商品開発 成功と失敗の間



商品開発 成功と失敗

デザインを考える

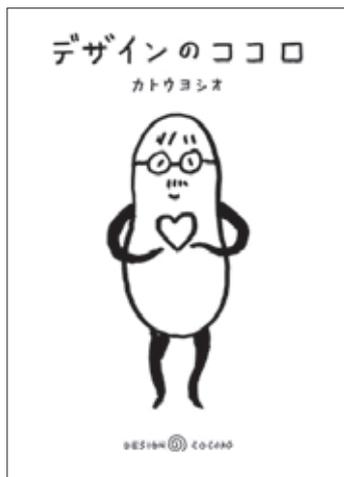
岡本 楓

カトウヨシオ先生のお話を聞いて、今回の講演で最も大事にされていると感じたのは「シズル感」です。そもそも「シズル感」とは、商品や広告などが魅力的で興味を引く感じのことを指します。サントリーの製品や広告についても、魅力的で興味を引く要素があるかどうかで、売れるか売れないかが大きく左右されるのだと感じました。また、サントリーは多岐にわたる商品を展開しているため、今回ワークショップを通して「シズル感」というものがとても重要視されており、失敗作だとしてもそのことをしっかり考え抜かれたパッケージのものが多く感じられました。

今回のお話ではじめて知ったことは、果実飲料の製品で果汁100パーセントの製品のパッケージには、野菜や果物などをスライスした断面のデザインを使用してもいいということです。今まで何気なく見ていたパッケージでも、使っているものと使っていないものがあるということを知らなかったのが、大きな衝撃を受け大変勉強になりました。これからの生活でもそのような細かい所を気にして、なぜこれが使われているのだろうと疑問を持ち調べていきたいと思いました。

カトウ先生が書かれた「デザインのココロ」という本についてのお話で、パッケージなどを作る人の例え話で「道にある溝を埋める」ということを私たちがしないといけない仕事だとおっしゃっていたのを聴いて、溝が埋まらなければ人が通れないように、パッケージをデザインすることでその商品の良さや伝えたいことなどを消費者に向けて表示し、その意味を理解してもらうことがとても重要だと感じました。

カトウ先生の今までの講演でやってこられたワーク



ショップの紹介があり、何も見ない状態でドラえもんやミッキーマウスを書いてもらうというものがありません。その結果によると、ドラえもんは日本のキャラクターのデザインなので2次元(平面的)であるのに対し、ミッキーマウスは外国のキャラクターのデザインなので3次元(立体的)であるため、同じキャラクターのデザインでも日本と海外ではデザインの仕方にも違いがあることが分かり、面白かったです。

ワークショップでは、○×形式のクイズをし、その商品が売れたか売れなかったかを考えるものでした。そこで驚いたことが3個ありました。まず、リンゴジュースのパッケージで、当時は現地で生産されたようなプラスチックの入れ物に手書き感あふれるなじみやすいパッケージのものが売れたのに対し、当時は売れなかったピンにシンプルなパッケージの物は現代では売れそうなのが、時代の流れで前は売れなかったものが今では売れるかもしれないと考えると面白いと感じました。次に、はちみつレモンのパッケージでは、蜂のイラストとレモンのイラストが描かれたパッケージの商品が大盛況でたくさん売れていると、他社も同じような商品を次々に販売していったため、差別化ができなくなり共倒れしていった商品があると知り、確かに見たことはある商品だが似たようなものを多数見たことがあり、気付けば見なくなったなど感じました。このことから、競争の激しさが同じようなものが増えるとその勢いも衰えてしまうということが分かりました。最後に、「なっちゃん!」のパッケージが誕生するまでの過程では、その当時サントリーの自販機には子供むけの飲料がなかったため子供向けの飲料を開発することになり、ネーミングをかわいくて楽しそうな雰

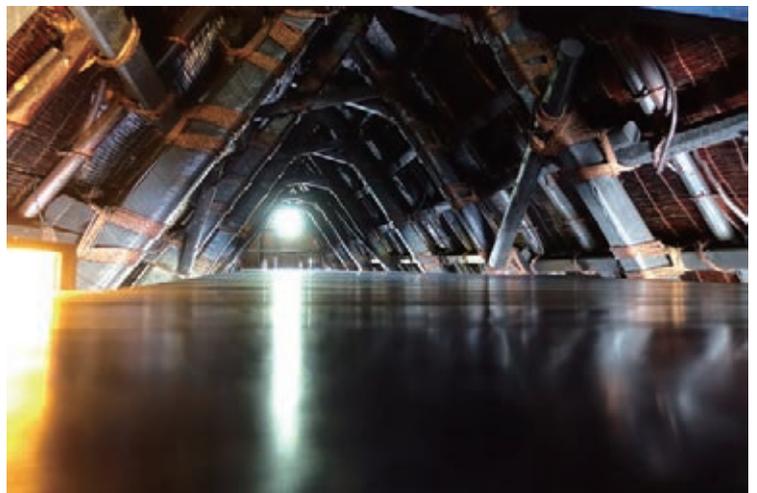


囲気を表し、みんなに親んでもらえるような名前にしたいという思いから「なっちゃん!」と名付けられたと知り、子供でも大人でも呼びやすく消費者とデザイナーとの距離感が近くなるような、親しみやすいパッケージデザインを考えることが大切なのだなと感じました。

この講演会を通して、デザインを考えるうえでデザイ

ナーが消費者に対してどのように寄り添いその時代に合わせたデザインを考えていかないといけないのだなということが、カトウ先生の失敗談などを聴いて重要だなと考えました。

(デザイン工学部 建築・環境デザイン学科)



▲令和5年度 写真・イラストコンテスト(写真部門)努力賞作品
『合掌造り』
細見 拓世(デザイン工学部 建築・環境デザイン学科)

留学記



留学記

Study Abroad Reports

令和5年度 写真・イラストコンテスト(写真部門)応募作品
「大自然のオアシス」
高橋 海智(工学部 電子情報通信工学科)

イギリス留学記——SOAS China Institute

経済学部 国際経済学科 門 闖

私は2022年4月から2023年3月まで客員研究員としてイギリスに渡り、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院(SOAS University of London) 中国研究所(China Institute)での留学生活を送りました。滞在先のホスト先生は中国研究所の所長であり、中国研究の分野で世界的に有名なSteve Tsang先生でした。彼の指導のもと、英国での研究と新たな文化に触れる貴重な機会を得ました。

在外研究生活は初めての経験であり、また訪英直前にロシアによるウクライナへの侵攻が始まり、出発する前の心配事が、コロナ禍によるイギリス入国時の水際対策から世界情勢不安による渡航の制限に変わりました。そのため、4月1日にロンドンに到着したものの、最初の数週間は不安と緊張がぬぐいきれませんでした。しかし、留学先の登録手続きをおこなう中、Steve Tsang先生が主催する隔週ワークショップに参加し、留学の生活をスムーズにスタートすることができました。ここであらためて研

究所のサポート体制や溶け込みやすい研究環境に感謝したいと思います。

その後、訪英前に連絡を取っていた先生方との交流を深め、資料調査の予約も取れるようになり、新しい研究環境に順応することができました。イギリスでの留学生活は自分自身にとって非常に貴重な経験であり、様々な研究活動に参加することで視野が広がり、日々成長を感じる1年でした。以下に、3つの内容から、この留学生活について振り返りたいと思います。

イギリス：激動の1年

全く予測できない出来事が続く中で、私が滞在した1年は、イギリスの歴史に深く刻まれる激動の年でした。2022年には、エリザベス2世の逝去に伴いチャールズ3世が即位し、Brexit(イギリスの欧州連合離脱)を断行したボリス・ジョンソン首相に代わって首相に就任したリス・トラスはわずか46日で首相の位から退き、はじめてのインド系首相であるリシ・スナク内閣が誕生しました。これらの出来事は、EU離脱後の貿易交渉やウクライナ問題などよりもイギリスにおける権力構造の劇的な変化に世界から注目が集まっています。これらの変化を目の当たりにした外国人として、身近でこれらの変化がイギリス社会に与える影響を感じるすることができました。

最初に感じたのは、イギリス史上最長の君主であるエリザベス2世が、70年にわたり公務に奉仕してきたことへの国民の支持と敬愛でした。イギリスに滞在してから2カ月、エリザベス2世即位70周年の記念行事として女王の公式誕生日に合わせて4日間にわたるプラチナ・ジュビリーが開催されました。これはイギリス国民にとって祝日だけでなく、ポストコロナ時代に初めの国民行事であり、敬愛する女王への祝福の機会でもありました。プラチナ・ジュビリー期間中は、3年に及ぶCOVID-19パンデミックの影響が一掃され、イギリス国内は祝賀ムードに包まれました。しかし、わずか3カ月後に悲しいニュースがイギリス中を震撼させました。史上最長在位の君主であっ



▲プラチナ・ジュビリー行事中のバッキンガム宮殿(6月)

た96歳のエリザベス2世は、スコットランドのパルモラル城で崩御しました。イギリス中はお祝いムードから一転して追悼ムードに変わりました。女王の崩御に伴い、女王の葬礼を含むロンドン橋計画が実行され、イギリス政府は、10日間の全国服喪期間を定めました。その間、女王の遺体はウェストミンスター・ホールに安置され、市民は数十万人参列したとされています。留学中の私も休日を利用して2つの行事に参列し、身をもってわずか3か月の間に起こったイギリス権力構造の劇的な変化を体験しました。特に女王葬儀の参列では、10時間以上もイギリス市民と一緒に列になり、一般のイギリス市民と交流する機会を得ました。その中で、多く聞いて感じたのはエリザベス2世に対する称賛と君主制への不満が混じり合うイギリス人の複雑な心境でした。



▲エリザベス2世葬儀参列に並ぶ途中(9月)

こうして、2022年は、イギリスにとって、COVID-19パンデミックやBrexitの影響に続き、国際的にはウクライナ戦争に伴う世界やヨーロッパ情勢の不安定に直面し、国内的には政治的な変化や生活コストの高騰などに対処しなければならない難局の1年でした。私の留学生活は、このような国内外の難題が山積するイギリスで送りました。

SOAS: heterodox versus orthodox

イギリス留学の目的は、事前に申し込んだ研究テーマについて専門的な知識を深め、SOASに在籍する優れた教授陣からの指導を受け、様々な学問的なアプローチを

学ぶことです。そのため、所属の中国研究所やホスト先生が主催するセミナーやワークショップ以外にもSOAS経済学部講義やセミナーを中心に関連の学術活動に参加しました。

その中で、最も多く参加したのは、Dic Lo先生(SOAS経済学部Reader in Economics)が主催する中国経済論の講義とセミナーでした。Dic Lo先生は政治経済のアプローチで中国経済の工業化やグローバル化、また東アジア経済の比較制度分析などの分野において数多くの論文を執筆し、中国人民大学経済学院の特任教授も務める著名な中国経済研究者です。他にも、金融との関連性から、Costas Lapavitsas先生(SOAS経済学部Professor of Economics)とUlrich Volz先生(SOAS経済学部Professor of Economics)が主催するセミナーやワークショップに積極的に参加しました。Costas Lapavitsas先生は日本語にも訳された名著である『金融化資本主義—生産なき利潤と金融による搾取—』(斉藤美彦訳、日本経済評論社、2018年6月、英語『Profiting Without Producing: How Finance Exploits Us All』)の著者で、世界的に知られるマルクス経済の研究者である。それに対してUlrich Volz先生は政策的なアプローチを用いて気象変動や持続発展可能な金融システムの構築といった応用経済の分野において各国の金融政策や金融システムに対する健全性アセスメントを中心に数多くの業績をもち、中央銀行の実務経験にもとんだ著名な研究者です。2人の先生ともに日本との交流は多く、日本からの訪問研究者に対して格別のご高配を賜っていただいています。先生たちとの交流は自分自身の視野を広げるだけでなく、これからの研究の方向性を定める上で



▲Dic Lo先生の中國經濟セミナー

大きなヒントを得る機会となりました。

特にSOASの教授陣はorthodox(主流派)のアプローチを用いた先生が少なく、いわゆる批判精神の強いheterodox(異端)アプローチを用いた先生が多いです。ただし彼らの講義では必ず主流派の主張や関連研究を紹介するなど、heterodox versus orthodox両方のアプローチから学生の批判的思考能力(critical thinking)を鍛えています。例えばCostas Lapavistas先生は通常の金融論講義以外に経済数学などの講義をもち、Dic Lo先生の経済学入門の講義では新古典派の経済モデルを解説しています。このような厳しい訓練を受けた学生は、多種多様なアプローチをもちながら他人との差別を常に意識しながら学術に挑んでいます。この点は、SOASの組合春闘(industrial action)にも反映され、先生たちの春闘を支持し、自ら講義に参加しない学生もある一方、先生たちの春闘に反対し、オンライン講義の効果を疑問視し、学費などの減免を求める学生もおられます。



▲The National Archives

アーカイブの収集

今回の留学におけるもう一つ重要な目的は、イギリスに収蔵される中国に関する膨大なアーカイブ資料の収集です。滞在先のSOAS図書館は、アジアやアフリカ、中東研究の分野で、世界でも最も重要な図書館の一つです。大量の寄贈アーカイブも収蔵するなど、専門的な資料を提供してくれる世界にも類をみないアジア・アフリカのアーカイブコレクションを有しています。最初に収蔵資料

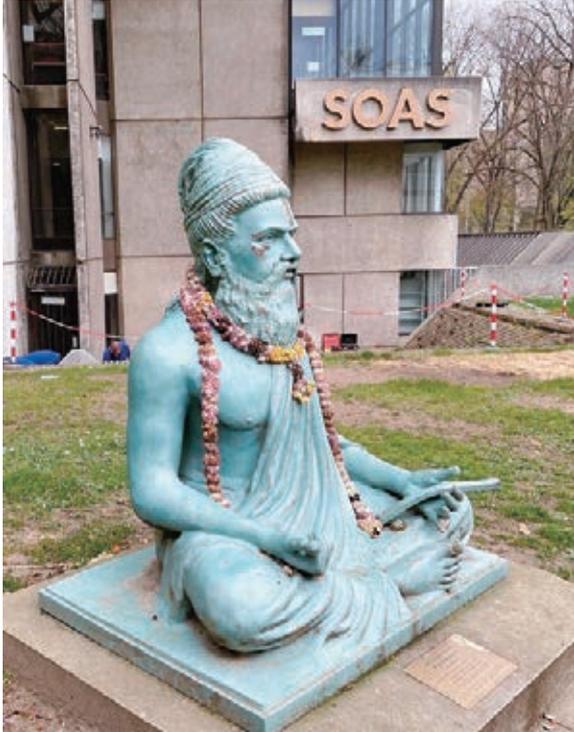
のカタログに触れた時には、そのコレクションの膨大さに圧倒されました。幸い、図書館のスタッフは非常に親切で知識豊富であり、私が探そうとするテーマに関連するアーカイブの所在を案内してくれました。またKent Deng先生(LSE Professor of Economic History)の蔵書寄贈などを通じ図書館スタッフに接するチャンスは多くなり、SOAS所蔵のアーカイブだけでなく、イギリス全体のアーカイブ所蔵や電子データベースの利用についても助言をいただきました。

また、ロンドンの中心部から少し離れた、ロンドン郊外のキューに位置する英国National Archives(王立植物園「キュー・ガーデンズ」より徒歩10分程度)にも定期的に足を運びました。National Archivesはイギリスの公文書館であり、特にイギリス外務省の記録や歴史的な文書を保管しています。私は戦時と冷戦下におけるポンドの利用について、イギリスと中国の関係を中心に調べました。外務文書は多岐にわたり、必ずしも必要なものを見つけることができませんが、半年以上通い続けたことでNational Archivesが所蔵する中国関連資料の全体像についてひとまずの状況を把握することができました。これからNational Archives公文書を利用するための準備ができたといえます。

さらに、私の研究にとって一つの重要な資料源は、イングランド銀行(Bank of England)のアーカイブ資料館でした。イギリスの中央銀行として、イングランド銀行アーカイブは金融のみならず、アジア・アフリカ植民地関連の膨大な資料を有しています。資料館の閲覧は少人数の完全な予約制ですので、1年前からお願いしないとなかなか予約を取れない状況が続いています。予約時からご丁寧に対応していただいたJoseph Hettrickさんの助けをお借りしてイングランド銀行アーカイブの収集ができました。また資料の解析についても助言を頂き、お名前を記してお礼を申し上げます。おかげさまで複数の資料館の間で往来する充実した日々を送ることができました。

後記

他にも、中国研究所のLi-Sa WhittingtonさんやAki



▲SOAS思考者

Elborziさんからは滞在の手続きや研究成果の公開において多大な支援を頂きました。Dr JieYu liu、Dr Lars Laamann諸先生は聴講を許してくれたり、研究会や執筆に誘ってくださったり、留学の体験をさらに充実したものにしてくださいました。ここで深く感謝したいと思います。もちろん、留学生活は常に大きな困難に直面しています。言語や文化の違いのみならず、健康や安全面でも乗り越えなければならない壁が多いです。幸運にもイギリスで出会った素晴らしいSOASの学生たちや、研究会で知り合った同業者たちから様々な支援を頂き、1年間の留学生活を無事に終えることができました。最後になりましたが、留学費用の一部を援助していただいた大阪産業大学学会に心より感謝したいと思います。

全てが新鮮だった韓国留学

国際学部 国際学科 横塚 春乃

私は2022年8月25日から2023年2月10日まで、韓国の聖公会大学で留学生活を送りました。行くまでの準備で、入学許可証をもらうまでに時間がかかったり、夏期休暇などで韓国に旅行する人が多かったので、ビザの申請に苦戦しました。予約制でしたが、予約できる日が出発の3日前とかで、本当に予定通り行けるのかとても不安でした。しかし、母や先生方が協力してくださり、無事に申請して取得できました。韓国に行くまでは、親元を離れて生活することも、海外に行くことも初めてのため、不安な気持ちでいっぱいでした。そのため、先生と、そしてランゲージカフェも利用して会話練習をし、韓国の雰囲気なども話を聞いたり調べたりしました。実際に韓国に着くと、同じ学校の人や他校の日本人学生がおり、分からないことを共有して協力できたので、良かったです。初日は、日用品などを買いましたが、思っている以上に値段が高く、日本では売っているものも売っておらず、これから生活していけるのか不安になりました。特に、食料品で苦戦しました。大型のマートでさえ、カット済みのキャベツや一人用のお惣菜のような日本では当たり前にあるものがありませんでした。コンビニもお弁当やパンなどの品揃えが悪かったです。その上、調味料なども家族用が多いため、値段も高く、自炊もお金がかかって大変でした。生活を送りながら気づいたことですが、韓国ではシェアすることが多いみたいで、カフェでも一つのケーキを2、3人で食べていました。だから、お惣菜などもファミリーサイズが多いのだと思いました。



語学堂の授業は9月6日に開始でしたが、韓国の大学の授業の雰囲気を見たり、友人を作ったりしたかったため、一般の授業も履修しました。授業内容が難しいとストレスになると考えたため、日本語の授業を履修しました。一般の授業は9月1日から受講し始めました。数字の数え方や簡単な文法、単語を学ぶ授業でしたが、不規則な数字の数え方などに苦戦している学生が多かったです。普段、日本語を自然に話しているため、気付かなかったことがあったり、外国人が難しいと感じている部分を知れたりして面白かったです。ペアワークなどで知り合ったり、授業後に声を掛けてくれたりして、韓国人の友人も作りました。実際に韓国の友人と話してみても、自分の話している韓国語が現地で通じたことが嬉しかったです。友人達と遊び、韓国の色々な場所や食べ物、若者の遊び方を知ることが出来たことも良かったです。また、日本語が上手い人が多く、分からない単語を日本語で言えば通じたこともありました。知っている理由を聞くと、多くの人がアニメを見て覚えたと言っており、日本のアニメの影響力の強さを感じました。語学堂の授業は、秋学期14人、冬学期9人という小規模でした。秋学期はドイツや台湾から来た学生もいましたが、冬学期は全員日本人学生でした。少人数のため、学生の語学のレベルがバラバラで、初級レベルの授業から始まりましたが、習う文法や単語が既に知っているものばかりで、最初はあまり楽しく感じませんでした。語学堂の先生に相談すると、TOPIKなどの授業外で勉強していることで分からない部分があれば見ると仰ってくださいました。また、別で課題を出して下さったり、どうすれば私にあった勉強ができるのかを一緒に考えて下さったりしました。先生の対応のおかげで、楽しさを感じなかった授業も、復習と思って真面目に取り組むことができました。文法や単語は知っていても、会話する機会は日本の大学の授業では無かったため、習った文法や単語を使ったペアワークなどは毎回楽しかったです。お互いネイティブじゃないから、上手く使えているか不安もありましたが、より文法や単語の意味を考える時間になり、勉強になりま

した。他にも、チャプチェを作ったり、博物館に行ったりする文化授業もありました。文化授業では、外部の先生が説明して下さることが多かったため、普段の授業より話す速度が速く、聞き取りが難しいときもありました。しかし、それはそれで新鮮で、韓国だからこそできるような体験ができ、良い思い出になりました。

今回の留学を通して、韓国語の語学力が伸びたことも実感しましたが、物事を前向きに考え、挑戦するようになりました。韓国に行く前までは、嫌なことは避けて、自分の思っていたことと違ったらストレスになっていました。例えば、電車の乗り方が分からず、乗り間違えてしまった時、普段なら不安になるし、ストレスになっていました。しかし、何が間違っていたのかを韓国の友達に聞くことによって、韓国語の勉強にもなり、次からは困らずに済むと考えられるようになりました。このように成長できたのは、韓国にいる間、仲良くしてくれた友人や先生方のおかげです。約半年間という短期間でしたが、留学できて本当に良かったです。



学生生活最後のかけがえのない時間

国際学部 国際学科 数元 ひなた

私がこの留学で得たものは大きくわけて3つあります。1つ目は韓国語の語学力です。語学を目的とした留学のため語学学習は当たり前のことかもしれませんが、留学前の私は韓国語は初級段階で、韓国の人との会話は出来ないに等しい程でした。しかし半年間、毎日無遅刻、無欠席で語学堂の授業に通い、自習を行い、韓国の方と会話する機会を増やしたことで、授業の解説が全て理解できるようになり、韓国人の友達と韓国語で会話を交わせるようになりました。語学堂の試験でも点数の結果が目に見えて高くなりました。また、毎日韓国語に触れるため、語学力が身につけているのを実感することが出来、その嬉しさから語学の勉強がさらに好きになりました。自主的に勉強する時間も増え、1日5時間ほど集中して復習に励んでいた日もありました。この留学は今までの人生の中で1番自主的に勉強した期間であり、1番吸収した期間だったと考ました。

次に2つ目は、行動力です。私はもともと好奇心旺盛の方ではありますが、優柔不断な性格でもあるため、なにか行動する際に後回しにしてしまうことが多々ありました。ですが、この韓国留学は半年間という短い期間だったため、興味のあることやお誘いには進んで参加していました。例えば、インターネットで募集をかけているボランティアに参加したり、SNSで作られたサークルの集まりに呼



んでもらったり、日本語の勉強をしている韓国人の方に直接会って言語交換をしたりといった初めての経験を沢山してきました。

その中でも印象的だったのが、大学の閉講パーティーに参加したことです。韓国では授業の開講と閉講の際に生徒何人かで計画を立てて、同学年ほぼ全員を居酒屋に集めてパーティーをするという習慣があるらしく、その会に招待してもらいました。まだ上手く話せない韓国語での会話でしたが、留学について興味を持っている方や、日本に来たことのある方と話が弾み、同世代で流行していることや教科書には無い若者が話す言葉を教えてもらい、とても楽しい時間を過ごしました。短い期間での留学が故に、何事にも参加しようと思うことが出来、自発的な行動力の向上にも繋がったと思います。また、多くの人に出会い、初めての経験が出来、沢山の良い思い出が出来たので行動して良かったと思いました。

最後の3つ目は、思いやりの心です。私の韓国留学の生活はとても恵まれていたと感じています。このように思えた1番の理由として、私の周りの方々は思いやりのある素敵な人ばかりだったのだと感じたからです。まず、この留学で出会うことの出来た韓国人の友達は留学生の私を快くサポートしてくれました。韓国語が疎かな私の代わりに電話の対応をしてくれたり、買い物の仕方から交通機関の使い方、口座の開設まで手伝ってくれたりしました。遊びに行く時は、観光地や地元の人を知る繁華街などさまざまなお勧めの場所に連れて行ってもらい、もてなしてくれました。次に同じ語学堂に通い、同じ寮で過ごした友達は毎日顔を合わせて共同生活を送りましたが、お互いが相手への思いやりがあったからこそ半年間喧嘩もなく過ごせたと感じています。また、学校の先生方や食堂の店員の方は親戚のような距離感で面倒を見て下さり、日本とはまた少し違ったアットホーム感がありました。

そして1番強く思いやりを感じたのは日本にいる家族からでした。留学を決めた時から前向きに応援してくれており、決して安くはない留学費や生活費も手伝ってくれていた



ので、家族の期待に答える為にも悔いのない留学期間にしようと思えました。ホームシックになってしまった時期には、母は「いつでも帰ってきたらいい」と安心させてくれて、留学経験のある兄からは的確なアドバイスで背中を押してくれました。このように沢山の方からの支えがあったか

らこそ、半年間の韓国留学に集中出来、さまざまな経験が出来たと感じています。周りの人から受けとった思いやりは、受け取った以上の思いやりを返したいと思うようになり、私のような立場の人がいたら次は私がサポートする側に回りたいと思いました。

この韓国留学で語学はもちろん、韓国の人の温かさや文化の素晴らしさに触れながら、毎日が初めての体験というかけがえのない留学生活を送ることが出来ました。また、自分がここまで集中して熱心に物事に取り組めたという結果が残せて嬉しく思っています。そして自分自身の長所と短所を見つめ直すことが出来、学生生活最後の取り組みとして他の人には味わえない素晴らしい経験ができたと思っています。日本に帰った今も連絡を取り合い、会う約束をしている韓国の友達もいるので、留学したことを無駄にしないように今後も語学の学習を進めたいです。

半年間で私が得たもの

国際学部 国際学科 中嶋 爽子

私は約半年間韓国、ソウルにある聖公会大学に留学しており、秋学期と冬学期のそれぞれ約2か月間を語学堂で学びました。語学堂を含めた生活の中で、韓国へ渡った当初よりは韓国語の能力を向上させることが出来たと思いますが、韓国へ渡ってすぐ自分の韓国語能力の低さに気づかされました。

元々韓国に興味があったため、ドラマやYouTubeの動画などを見ていたこともあり、簡単な表現や単語などはなんとなく耳についていたので、日常生活で使う言葉は少し理解しているつもりでした。しかし、空港に着いたときに韓国語で「パスポートを出してください」と言われ、パスポートの単語も聞き取って理解することが出来ませんでした。学校に着いた後、簡単に行われた宿舎の説明や必要品を買いに出かけた街の中の会話なども、ほとんど何を言われているのか理解が出来ませんでした。ドラマやYouTubeの動画では何となく似た表現や同じ単語が使われることが多いので、繰り返し聞くことにより覚えていただけで聞き取りや会話のスキルは全くないことを初日に突きつけら



れました。

そんな中始まった秋学期の語学堂の授業は、2級の簡単な表現から始まりました。しかし、もちろんのこと授業は全て韓国語で行われるため、「韓国語を耳に入れる」ということがとても大変でした。そしてそれを理解すること、整理すること、授業自体を理解することと頭を休める時間がなく、毎日のように休憩時間も韓国語が出来る日本人の子に習った表現の使い方や、単語の意味などを教えて貰っていました。授業では、先生方が出来るだけ分かりやすい表現で教えて下さったり、個人のレベルに合わせたスピードで説明をして下さったりしたので、何を言っているのか全て理解できないということはありませんでした。先生方や同じクラスの人たちとも基本韓国語で話し、定期的に行われる話すテストや書くテストによって少しずつではありますが、韓国語に慣れていきました。

また、留学を始めて3ヶ月ほど経った頃から日常生活の買い物やカフェ、電車に乗った際など、どんな場面でも韓国語に触れるため韓国語自体を耳に入れやすくなり、当初のような違和感は無くなりました。韓国人の友達や先生との会話でも、聞き取れる単語や表現が多くなり、決まった表現ではありますが、伝えることも出来るようになり始めたタイミングでした。毎日韓国語に触れていたため、日本人の子との会話で韓国語が出てしまったり、日本語を韓国語に訳したり、韓国語を日本語に訳したりと無意識のうちに自分の頭の中で韓国語を考えられるようになりました。留学に行くからには現地で「生きた言語」を学びたいと考えていたので、ちょっとした感覚ではありますが実際に触れ、学ぶことで活かすことが出来ていると感じました。また、語学堂の授業など学校内では韓国語を学びに来た外国人として私に話してくれるので、聞き取りやすく理解しやすい韓国語で会話をしてくれますが、一步学校の外に出るとそうではないので「会話」という行為がとても難しく緊張してしまうものでした。しかし、留学生活を送るにつれ段々とお店や食堂の店員さん、韓国人の友達と少しの会話でも自然に話すことが出来るようになり、そ

の時は韓国語の能力が向上したと感ずることができ、とても嬉しかったことを覚えています。

まだまだ、韓国語の能力は高くなく自分自身も納得できるものではありません。しかし、確実に留学前より韓国語に慣れることができ、聞き取ることや書くこと、伝えること、話すことが出来るようになりました。また、留学生活を通して今回の留学の目的であった、視野を広げることが出来たと思います。今までとは違う国、環境の下で生活出来たことはとても大きな経験になり、今まで自分が見てきたことが全てではないことを再認識しました。大学に入学してから思うような学生生活が送れていませんでしたが、韓国でたくさんの人に会い、友達も出来ました。言葉では言い表すことの出来ない経験をすることが出来ました。この半年間で留学に行く前より少し大きくなれたと思います。



幸せな韓国語留学

国際学部 国際学科 船田 理紗子

私は半年間の韓国語留学をしました。海外旅行にも行ったことのない私がいきなり留学に行くことは非常に不安でもありま



ましたが、ワクワクしていました。パスポートやビザを発行する所から初めての経験でした。私が、韓国留学をしたいと思ったきっかけは、3つあります。1つ目が、海外に住んで異文化を体験したい。2つ目は、韓国語の能力を上げたい。私は、韓国ドラマが好きで字幕なしで見られるようになりたいと思い韓国語を勉強したいと思いました。3つ目は、韓国の友達を作りたいと思ったからです。留学で得たことは積極性です。現地に実際にいったからこそできることを沢山経験し、挑戦することが出来ました。

韓国留学初日は非常に大変な一日でした。韓国に入国後の集合場所が分からず、空港の中を迷子になったり、寮に到着し、シャワーを浴びていたら排水溝が詰まっていたりなどハプニングが沢山ありました。さらに、買い物をして店員さんの言葉がとても早く、聞きとることが出来なかったりなど自分の韓国語能力のなさに失望していました。あと半年韓国で生きていけるのか不安になり、日本に帰りたいたいと思っていました。このように、私の韓国留学の1日目スタートしました。

入国してから2週間後に語学堂の授業が始まりました。

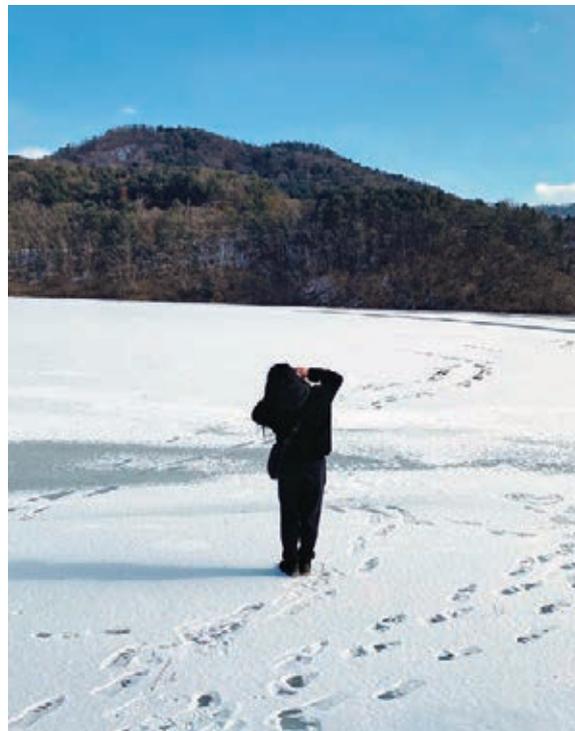


とても緊張していましたが、先生たちが熱心で丁寧に教えていただきとても楽しい授業を受けることが出来ました。私は秋学期と冬学期を受講しました。授業は朝の9:00から12:40まででした。1時間目が語彙の確認。2時間目が文法。3、4時間目が話す練習と書く練習でした。私が一番実力が伸びたのは書きでした。授業の中で、中間試験、期末試験、スピーキングテストがあります。中間試験、期末試験では読み、聞き取り、書きの試験もあります。書きについては、事前に何について書くかを知らされるので、事前に原稿を書いて韓国の友達に添削をしてもらっていました。スピーキングテストではいきなりテストをやるのではなく、話したいことを事前に原稿に書いて先生に添削をしてもらいます。そのようにしていくうちに、スペルも覚えることが出来、韓国での文章の書き方などを習うことが出来ました。さらに、毎日机に座って勉強するわけではなく、外に出ての文化授業も沢山ありました。「チャプチェ作り体験」「韓国餅作り体験」「プレスレット作り体験」などを体験しました。その中でも「プレスレット作り体験」です。韓国では、매듭(メテップ)と言って韓国古来から伝わる「組み紐」があるのですがそれを使ったプレスレット作りが非常に面白かったです。簡単そうで意外と難しかったです。とても可愛いプレスレットを作ることが出来ました。このように、韓国でしか経験することが出来ない文化体験も経験することが出来て非常に楽しい授業でした。さらに、語学堂以外の授業にも聖公会大学の一般の授業も受講しました。ネイティブ日本語という授業を受講して、日本語を



学んでいる韓国人の方と一緒に授業を受けました。授業を受けていく中で、質問をしてくれたり、逆に私が韓国語を学ぶ上で疑問に思ったことなど質問をしました。そうすることで、韓国人の友達ができました。

旅行にもたくさん行きました。ソウルでは、「駱山(ナクサン)公園」の夜景が非常にきれいでした。ソウル以外でも旅行にたくさん行きました。私が旅行に行った所は、「江陵(カンヌン)」「加平(カピョン)」「釜山(プサン)」です。その中でも、加平(カピョン)の南怡島(ナミソム)が非常によかったです。景色がとてもきれいでした。韓国ドラマ冬のソナタのロケ地でもあり、野生のクジャクやウサギがいました。とても寒いところなので川が凍っていて、川の上に立って写真を撮りました。私は冬に行きましたが、春夏秋冬どの季節に行ってもその季節を感じられるような景色がみられると思いました。



韓国留学を終えて、後悔がなかったなと思う留学になりました。自分の韓国語能力のなさに絶望し、韓国人の方とお話することが怖くなっていましたが、このままではだめだと思い、積極的に外に出て、店員さんと話したり、一人で旅行に行ってみたりなど沢山の経験をしました。その経験から今は、韓国語を使ってお仕事をしてみたいという願望も芽生えました。自分を成長させてくれるような韓国語学留学になりよかったなと思います。

私の韓国生活

国際学部 国際学科 福原 まなみ

私は2022年8月30日から2023年8月30日まで韓国ソウルの聖公会大学へ留学しました。出発の数か月前から準備が始まりましたが、コロナ禍明けということもありタイミングが悪く、ピザの申請や書類の手続きなどが難しい時期でした。日本に住みながら一人であるような複雑な手続き・申請をすることがなかったため、出国前から良い経験をし、勉強にもなりました。

私は本来の予定より急遽5日間ほど遅く出国しました。ほかの学生は空港からまわって留学先の寄宿舎に入ったとのことだったので、初めての韓国で言葉も電車の乗り



方もわからない状況で一人で行けるか不安でした。しかし聖公会大学の方が私一人のために空港まで来てくださり、寄宿舎に着くまでの間携帯の手続きや韓国生活において便利な携帯アプリなど、丁寧に教えていただきました。

語学堂の授業が始まると、日本人の留学生を含め台湾、ドイツの学生と出会いました。ここでは共通言語が韓国語なので、レベルの差は多少ありましたがみんなの語学向上意欲が高く、ゆっくり会話しながら楽しんでいました。授業では単語や文法の説明をしていただいた後、必ず会話の練習があるのですぐ実践して使うこともでき、先生との雑談や発表も多いので韓国以外の文化も知ることができました。そのおかげで母語も文化も違う学生ともすぐに打ち明け、全員が仲良くなり授業外でも遊ぶようになりました。また、聖公会大学の語学堂には文化授業がたくさんあります。韓国の伝統家屋の見学に行ったりガイドさんの話を聞いたり、朝鮮時代からの伝統ものの刺繍作り体験をしたり、伝統お菓子と餅の博物館に行ったりして、旅行や観光ではなかなか体験しないようなことまで数多くの体験をさせていただきました。

語学堂のほか、聖公会大学の一般の授業もたくさん聞きました。特に日本語の授業では日本に関心のある学生たちが多く、また、積極的に話しかけてくれる学生も多く私自身も韓国人の友達が欲しかったので、毎回違う席に座って授業を聞きました。授業を聞きながら私が日本語を教えたり、逆に韓国語を教わったりもしました。いろんな学生とコミュニケーションを取って友達をたくさん増やすことができたため、教科書で学ぶよりもっとリアルで現地の人たちが使うような言葉や表現、韓国人が実際に遊びに行く場所やおいしいものもたくさん教わりました。最初は授業の時に少しずつ友達が増えていきましたが、その子たちがさらに友達を紹介してくれて学校内どこに行っても友達がいるというほどの数になりました。また、中には学生会に所属している子もいたので聖公会大学の学生しか参加しないようなイベントやパーティーにも招待していただき、そこでもさらに何十人も友達が増えました。



韓国に一年留学して一番感じた点は、人とのつながりを大切にできる国だということです。お店などで質問をした時も丁寧に答えてくださったり、数回行ったお店では私たちのことを覚えていて話しかけてくださったりしました。個人的に今まで日本で生活しながらそのようなことは難しかったのですが私が感じた韓国では、一度一緒に授業を聞いただけ、挨拶をただけの関係でも次に会ったときには挨拶をしてそこからまた話したり、一緒にご飯を食べたりすることが多かったです。そのおかげでここまで友達を増やすことができました。

また授業が終わるとほぼ毎日友達とショッピングやカフェに行きました。私の韓国語が伸びた一番の理由だと思います。ただカフェで話したり散歩したりすることが多かったので、韓国人と毎日たくさん会話しながら学んだことが数え切れない程あります。週末にはご家庭にお邪魔させてもらうこともありました。そこでも温かいご家族に歓迎していただき、ご飯を作っていたいで一緒に食べ、たくさんお話ししました。

そのようなことを毎日経験できたため、韓国に行った当初はなかなか言葉が出てこなかったりわからないことも多かったり、韓国語能力試験TOPIK2級の授業にもついていくのに必死でしたが一年の留学を経て5級の授業まで修了することができました。あわせて、最初は頭の中で日本語から翻訳してから言葉に出していたものが、今では日本語と同じように無意識に言葉を発せられるようになりました。毎日楽しい一方、苦勞もありましたが、一年間現地で生活しながら言葉も文化も学び、人としても成長して自分の長所を増やせた一年にすることができたと思います。



私の韓国留学生活

国際学部 国際学科 前田 寧々

私は2022年8月22日から23年7月22日まで、韓国のソウルにある聖公会大学に留学しました。

まず留学するという目標は中学生の頃から抱いていたので、決まった時は今までにないほど嬉しかったのを覚えています。決まったと言っても語学の実力はまだ準備途中で、読み書きはできますが日常会話はギリギリできないかのレベルでした。ビザを取るにもコロナウイルス感染症蔓延のためなかなかうまくいかず、先生にも本当にたくさん手伝っていただきました。留学が決まって嬉しい反面、自分の実力不足の不安や書類や荷物の準備に関する不安がとて大きかったのを覚えています。

私は海外に行くこと自体初めてだったこともあり、空港についてからもかなり右往左往しました。ですが現地の方々は皆さん優しく、緊張もあり会話もままならない私をたくさん助けてくださいました。

語学堂での授業が始まると先生の説明もわかりやすく授業も聞きやすかったです。また日本人の割合が多かったのですが、ドイツ人、台湾人の友達もでき、休みの日にはカフェに行ったり、推しのライブに行ったりと楽しい生活を送れたと思っています。

語学堂の授業ではソウルの街で韓国文化を体験する授業がありました。他にもクリスマスパーティーをするなどたくさんの思い出ができました。

また、語学堂の他に聖公会大学の一般授業を受けられ

るとのことでしたので、私は単位を取る目的ではなく会話を上達させるべく韓国人の友達を作ろうと思い受講しました。

なぜなら、語学堂での勉強内容のレベルは私には簡単だったからです。語学堂内であればある程度会話もできる状態で、読み書きも勿論ほぼできていました。正直少し物足りなかった気持ちがありました。そこで「せっかく留学に来ているのにこのまま時間を無駄にたくない」と思い一般授業を受講してみました。

するとやはり友達はたくさんできて、韓国語もたくさん教えてくれました。今流行りの言葉や、略語、日本では聞かないような話をしてくれて、文化の違いをたくさん気づかせてくれました。

しかし私は韓国語を話すことが苦手でした。ですが韓国語を間違えることを恐れずに友達とたくさん話しました。たとえ間違ったとしてもニュアンスで伝わります。そして違う場合訂正して正しい言葉を教えてくれる友達がほとんどでした。例えば韓国に来て気になった韓国人の生活や文化のこと、また普段どのようにして勉強しているのかなど他愛もないことでもたくさん聞きました。

またカカオトークを交換して積極的にハングルを打つ練習もしました。

そうすることで語学面の心配や不安はほぼなくなり、TOPIKの試験にも挑戦できたので良い経験になったと思います。

韓国ではソウル市内でよく遊びました。

ソウルの街は地下鉄移動が主になっています。バスやタクシーもありますが、地下鉄を乗り継ぐ方が目的地まで速かったり、料金が安かったりと便利だったので私はよく使っていました。最初の頃は乗る方面を間違えたり、乗り換える列車を間違えたりと失敗もたくさんしました。

またソウルの地下鉄はよく遅延するので到着予定時刻に間に合わないことも多々ありました。留学中このような部分には文化の違いを多々感じましたし、失敗することも多々ありました。



スーパーやご飯屋さんや市場の屋台に行けば、お店の方がよく話しかけてくれます。美味しいものをお勧めしてくれたり、景色の綺麗なところをお勧めしてくれたり、他愛ない会話をすることもありました。

これも語学力を伸ばす上で大切なことの一つだったと思います。

留学に行くまでも、行ってからもたくさんの不安は常に付きまといました。ですが決して辛いことばかりではありませんでした。

カフェに行ったり観光名所を回ったりなどの楽しいことや美味しいものを食べたり、綺麗な景色を見たり、良い友達に会い親切な町の方々にも会い、よくしていただくなど多くの出来事と出会いがありました。

自分の実力を信じて間違うことを恐れずにいることで成長できたと思います。

全てに感謝できる良い留学経験になりました。



朝鮮語海外研修に参加して

国際学部 国際学科 秋田 彩月

8月6日から8月22日までの17日間、韓国の聖公会大学で実施された夏季朝鮮語海外研修に参加した。この研修に参加した理由は、現地で韓国語の勉強をしながら韓国の文化も実際に体験したいと思ったからだ。

学校では朝の9時から授業があり、午後からは文化体験や、韓国人の学生とのコミュニケーションの時間が設けられていた。

7日に入學式とレベル分けテストがあり、次の日から授業が開始された。レベル分けテストでは、筆記テストと1対1のスピーキングテストが行われた。筆記テストは難易度の違う2種類の問題があり、事前に提出していたそれぞれの学習状況によって分けられており、スピーキングテストでは韓国語で先生の質問に答えて少し会話をした。スピーキングテストの最後に自分の実力よりも少し簡単なクラスか難しいクラスのどちらに行きたいか聞いてもらったので、自分のレベルにぴったりのクラスに入ることが出来た。

授業はすべて韓国語で実施されたので、初めは理解できるか少し不安もあったが、単語ごとに区切ってゆっくり話したり、分からない単語があれば他の簡単な言葉を用いて言い換えて説明されたので、分かりやすかった。また、言葉だけでなくイラストや画像などもたくさん使われており、初めて見る単語や表現などもより理解しやすく、楽しく学習できた。

2週間の中で2回の文化体験があり、授業後の時間を使ってサムルノリ体験と伝統うちわ作りをした。

サムルノリ体験では、演奏の鑑賞と、楽器の体験をした。演奏で使用される楽器には、チャング、ブク、チン、ケンガリの4種類がある。まず、現地の学生の演奏を鑑賞したのだがサムルノリは見るのも初めてで、間近での演奏は楽器の音も大きく、だんだんリズムも早くなり迫力が凄かった。リズムに合わせて踊りも踊っておられる中でも笑顔でとても楽しそうに演奏していたのがとても印象に残っている。私はブクという太鼓を体験したが、リズムが何種類もあり、覚えるのが大変で少し難しかったが、現地の学生に

やさしく指導してもらい、上手く演奏することが出来たと思う。サムルノリを目の前で見て実際に体験できる機会はなかなかないと思うので、とてもいい体験になった。

伝統うちわ作りでは、韓国の伝統的な牡丹の絵に色を塗った。絵具で色を塗るだけなので簡単にできそうだと思っていたが、実際にやってみるとぼかしや、色の濃淡をつけるのが難しかった。お手本のようには上手くできなかったが、初めてにしては上手く出来上がったので、嬉しかった。



韓国人の学生とのコミュニケーションの時間には、日本の学生3人、韓国の学生2人のグループに分けられそれぞれのグループで好きな会話をした。私たちのグループでは、お互いの文化について気になっていることを聞いたり、流行りの事やご飯の事などいろいろな話をしたり、インターネットで調べても出てこないようなリアルな話を聞くことが出来た。また、コミュニケーションの時間の後、一緒にご飯を食べるまで仲良くなれたので嬉しかった。

修了式では、クラスごとにダンスや歌などの発表をした。私たちのクラスはダンスをすることになったが、私はダンスを踊ったことが無く、上手くできるか心配だったがクラスみんなが教えてくれたので、練習も本番も楽しむことができ、クラスの友達とも仲良くなることが出来た。

フリータイムには明洞や弘大へ買い物や食事に行ったり、好きなアイドルの事務所を見に行ったりした。流行りのお店には可愛いものが沢山あり、見ているだけでも楽しく、冷麺やトッポギ、カルグクスなど食べたかった韓国料理もたくさん食べることが出来たので良かった。

最後の3日間は、自由時間でホテルに泊まった。1日目と3日目は明洞周辺でお土産を買ったり、カフェに行ったりし、2日目は京東市場と広蔵市場に行った。漢方で有名な京東市場には、お店の前に漢方の材料となる木や鹿の角がたくさん置いてあり、市場全体に漢方の独特な匂いが広がっていた。広蔵市場ではチヂミ、キンパ、トッポギ、サンナクチを食べた。その中でも初めて食べたサンナクチというタコの踊り食いが印象的で、タコの吸盤が口にひっつく感覚が面白かった。



この2週間、学校で韓国語を学ぶだけでなく、習ったことを実際に使ってコミュニケーションをとったり、リアルな韓国の文化に直接触れることができたり、語学力も少し上達し、異文化に対する理解も深まったように思う。また、学校の先生や友達だけでなく現地の様々な人と出会い、話すことができ、たくさんの貴重な体験をすることが出来た。あっという間の2週間だったが、とても充実した時間になった。

海外研修レポート

工学部 都市創造工学科 下川床 政巳

8月26日に私は3週間の海外研修先のオーストラリアへと旅立ちました。これから現地での語学学校の生活について書いていきます。

まず、学習面に関してですが、オーストラリアに着いて初めての授業は何も分かりませんでした。主に、先生の言っていることがわからなかったです。また、クラスメイトと会話する時も英語なので、相手の言っていることを理解するのに頭を全て使っていたので、急に話を振られると全く対応できず大変でした。このような状態が1週間続きました。そのため、オーストラリアに行った第1週目はとても長く感じました。何とか話している内容を理解し、英語で会話がしたかったので、クラスメイトや友達の会話に耳を傾け、拙い英語で話し続け、YouTubeで英語と日本語の字幕のついた動画を視聴し、洋楽を聞くなどし、少しでも多く英語に触れるように努めました。このようなことを繰り返していると、第2週目には部分的にですが、先生や友達の話している内容が少し聞き取れるようになっていました。部分的にとはいえ話している内容が分かるようになって

た時はとても嬉しかったです。2週目に大変だったことは、スピーキングです。自分から話す時に、頭の中は「文法はあってるか」や「言いたいことをどう英訳するか」など考えていたので、頭の中が整理できず、上手く自分の言いたいことが伝えられませんでした。上手く話せなかった原因は考えるより先に口が動いていたからです。私は日本語で話す際に、考えるより先に口が動くことがあります。特に慌れている時にあります。この癖が英語で話す時に多々ありました。なので、頭の中をクリアにして落ち着いてゆっくり話すように心掛けたら、上手く相手に伝えられるようになりました。これが実感できたのは、帰国前日です。帰国前日の夜、私はブラジル人のルームメイトに日本に帰ることを伝え忘れていました。なので、寝る前のルームメイトに日本に帰ることを伝え、談笑していました。その時、ゆっくりですが、英語で会話することができ、自分の成長を感じることができました。

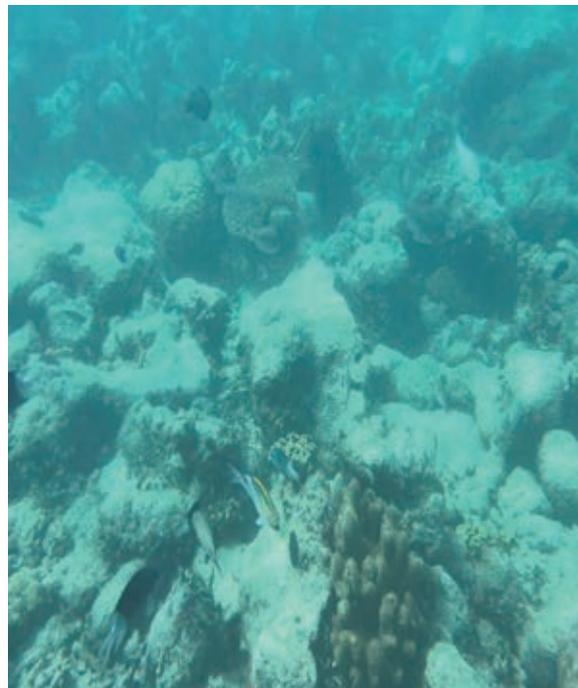
オーストラリアの生活については、まずオーストラリア到着後に驚いたのは、シャワールームとトイレが一緒にあったことです。日本にもトイレとシャワールームが一緒にあるところはありませんが、それとは異なります。SPC(サン・パシフィック・カレッジ)のシャワールームは屋外にあるトイレと一緒にあるからです。シャワーを浴び終わった後はとても寒かったです。また、一斉にシャワーを利用すると、温水が出なくなることがあり大変でした。また、SPCからケアンズの市街地までは基本的にバスを利用しますが、バスの運転が荒く、カーブが多かったため車酔いの酷い私にとってはとても辛かったです。そして、私は発音の違いに驚かされました。自分の知ってる発音とオーストラリアに住んでいる人の発音が異なっていたことです。例えば、デイリーチケットを買う際に、人によってはダイアリーチケットと発音している人がいて驚きました。最後に、物価が高かったのが挙げられます。特に店の料理とスーパーマーケットの商品がとても高かったです。しかし、衣類はそうではなく、値段は日本と比べあまり変わりませんでした。値引きに関しては日本とはかなり異なっていました。日



本はあまり値引きをしないイメージが私にはありますが、オーストラリアは値引いている商品が多くありました。印象に残ってるのは、全品半額の店や服を3着買ったら1着無料にする店がありました。私はオーストラリアの料理はあまり美味しくないと聞いていましたが、オーストラリアの店で食べた料理はどれも美味しかったです。特にステーキやハンバーガー、ケバブが印象に残っています。また、料理のサイズは日本のものより大きかったです。



私は研修期間中にオーストラリアにある世界遺産の一つ、グリーンアイランドに行きました。グリーンアイランド



はグレートバリアリーフの一部です。ケアンズシティの港から船に乗り、約45分で着きます。そこではシュノーケリングをしたので綺麗な海や魚、サンゴ礁を見ることができました。また、オプションで付けたランチも豪華で美味しかったです。

海外で長い期間暮らしたのは今回が初めてだったので、不安でいっぱいでしたが、日本語が通じない環境に身を置くことで、自分の成長に繋がったと思います。今回は大学の研修という形でオーストラリアに行ったので、次は、個人の力のみで海外に行ってみたいと思います。



▲令和5年度 写真・イラストコンテスト(イラスト部門)奨励賞作品
『AI時代における大学教育』
真木 稜介(デザイン工学部 環境理工学科)

学術研究書出版助成本の概要



学術研究書出版助成本の概要

Financial Aid for Publishing

令和5年度 写真・イラストコンテスト(写真部門)応募作品
『宇宙(そら)への軌跡』
石川 陽大(工学部 交通機械工学科)

『学術研究書 出版助成本の概要』

経済学部 国際経済学科 窪 誠

- ・ 刊行物名：『マイノリティ・ライツ—国際規準の形成と日本の課題』
- ・ 執筆者：窪 誠、上村英明、岡本雅享、朴金優綺、朴君愛
- ・ 出版社：株式会社現代人文社
- ・ 発行部数：600部

目次

はじめに

序章 民族とマイノリティ

第1部 マイノリティ権利保障の起源—国際連合前史

第1章 ネイションからマイノリティへ—欧州起源の概念

第2章 民族自決の提唱と少数民族条約

第3章 国際連盟におけるマイノリティ保護と日本

コラム 国際連盟と委任統治委員会、そして「先住民」

第2部 国際連合のマイノリティ権利保障

第1章 国際連合の設立と差別防止マイノリティ保護小委員会の活動

第2章 戦後国際人権法におけるマイノリティ・ライツの確立と日本

第3章 戦後日本におけるマイノリティ問題の回避

第4章 補完し合うマイノリティ・ライツの国際規準

コラム 世界会議の時代—ウィーン宣言とダーバン宣言

第3部 先住民族の権利

第1章 先住民族の権利の特徴—集団の権利と歴史の権利(近代史の修復)

第2章 国際人権法と先住民族—先住民族とマイノリティ

第3章 日本社会は先住民族の権利をどう扱ってきたか—単一民族国家神話との闘い

第4章 アイヌ民族と琉球民族の現状—多くの課題と多数者の義務と責任

第5章 脱植民地化の文脈で法的拘束力と自己決定権を考える

第4部 マイノリティ権利保障システムの強化



第1章 21世紀における国連のマイノリティ権利保障システム

第2章 国連の新たなマイノリティ権利保障システムの活用と実践

第3章 日本のマイノリティ女性たちのエンパワメントと女性差別撤廃委員会(CEDAW)

第4章 国連ガイドが提示する差別禁止とマイノリティの権利の新しい考え方

第5部 座談会・21世紀におけるマイノリティの権利と日本の課題

欧米における近代化とは、従来の王侯貴族による平民支配の上に成り立つ身分制社会から、有資産者(資本家)による無資産者(労働者)支配の上に成り立つ階級社会への移行であった。前者において、国家支配の正当化は、王権神授説に基づいていた。国王が神から授かった権威によって国家支配が正当化されたため、国家にまとまりを与えるものは、まさにこの国王の権威に他ならなかった。

ところが、経済活動の進展とそれともなう貨幣経済の発展によって、従来の平民の中から莫大な経済力をもつ有資産者が台頭し、自分たちの経済的自由と政治的権力を要求するようになる。その要求の実現が、17世紀におけるイギリス名誉革命、18世紀におけるアメリカ独立革命であり、フランス革命であった。革命の正当化は、民主主義にもとづく社会契約であった。

民主主義とは、言うまでもなく、民が主人公である。すると、論理的には、民が国家に先行することとなる。そのため、民に統一を与えるものは何かという議論が生まれることになる。その要素として、人種、言語、宗教に注目が集まることになる。19世紀西欧において、こうした要素によって結ばれる民をネーションとよび、ネーションの上に国家(ステイト)を建設しようとする国民国家(ネーションステイト)建設の動きが活発になる。西欧列強は、この動きをロシア帝国、オスマン帝国を解体し、複数の国民国家にする道具として利用する。こうして、第一次世界大戦後に列強が設立した国際連盟は、これらの帝国から新たに独立した国家の中の主要ネーションとは異なる人々を「ネーションのマイノリティ」という意味で、ナショナルマイノリ

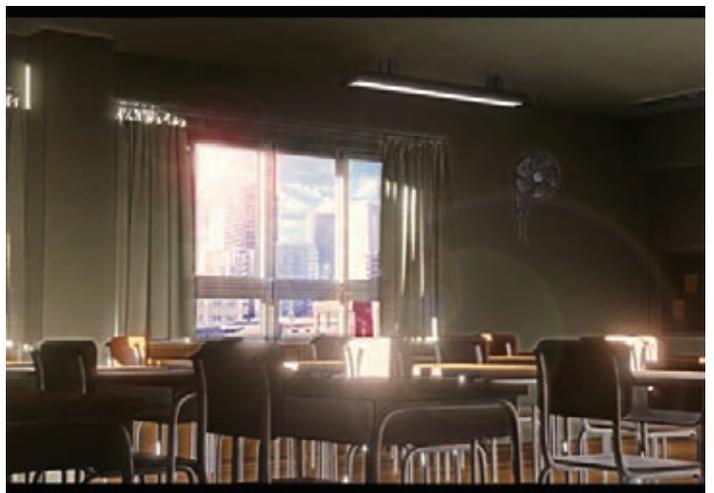
ティと呼び、ナショナルマイノリティの人種的、言語的、宗教的同一性を保護するための制度を確立した。これが、一般に、「マイノリティ保護制度」と呼ばれるものである。第二次世界大戦末期に設立された国際連合は、個人的権利としての人権を国際的に保障することを、その活動目標に掲げた(国連憲章第1条)。つまり、ネーションの均一性を優先し、マイノリティを主要ネーションに同化することを目指したのである。

1966年国連総会が採択した人権条約のひとつである「市民的及び政治的権利に関する国際規約」第27条はマイノリティ保護について以下のように規定する。

「種族的、宗教的又は言語的少数民族が存在する国において、当該少数民族に属する者は、その集団の他の構成員とともに自己の文化を享有し、自己の宗教を信仰しかつ実践し又は自己の言語を使用する権利を否定されない。」

本書は、以上のようなマイノリティの権利をめぐる歴史的経緯とその後の現代的発展を概観するものである。

(以上)



▲令和5年度 写真・イラストコンテスト(イラスト部門)努力賞作品
『放課後の教室』
河村 脩平(デザイン工学部 情報システム学科)

学会報告



令和5年度 年次報告

令和5年度 常任委員長 村田 好哉

大阪産業大学学会は、その会則にあるように「学術・研究・教育の発展および普及に寄与し、あわせて研究助成等を図ること」を目的としています。そのため例年『大阪産業大学論集』や『大阪産業大学学会報』を発行し、講演会・研究会・シンポジウム・学外研修会等を開催するとともに、学生会員の研究教育活動の助成、海外留学の助成等の事業、さらには主に学生会員を対象とする各種コンテストや様々な学外見学会を行なっています。

新型コロナウイルス感染症の蔓延という事態を受けて、令和4年度の大学は、入学式、授業の実施方法、学生の課外活動等様々な面で従来とは異なった対応を迫られました。大学学会の活動についても新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら随時変更を加えての活動となりました。この中で『大阪産業大学論集』や『大阪産業大学学会報』の発行はほぼ例年どおり行なうことができました。令和5年度は感染状況が落ち着いたことで、当初の予定通り活動を行うことができました。9月以降に、見学会等の企画事業を実施いたしました。具体的には、9月に「愛知 交通産業見学会」、「第18回鈴鹿安全運転研修」や「第2回関西国際空港見学会 海上保安庁・大阪税関見学」を実施し、11月には「第8回芸術鑑賞巡り(和歌山)」、「淡路 減災・防災体験会」を実施することができました。また学術講演会ですが、今年は10月にカトウヨシオ氏による講演およびワークショップを対面の形式で実施することができ、多くの教職員および学生会員の参加がありました。

企画事業では、ウェブ応募が可能な学会コンテストを開催しています。このうち「ぶんかくコンテスト」には長編4

件、短編2件の応募があり、「写真・イラストコンテスト」には写真30件、イラストデザイン9件の応募があり、「見学会プランニングコンテスト」には3件の応募がありました。

助成事業としては、出版助成をほぼ予定通り進めることができました。出版助成の申請は1件で、その内訳は商業出版の共著1件となっています。

このほか、学生の卒業論文集に発行援助金を支給し、卒業研究展・修士研究展への1件の助成を行いました。例年行われている国際交流課の海外語学研修は今年度実施され、これに補助(11名)を行いました。あわせて学生の海外留学にも10件(短期8名、長期2名)の補助を行いました。

今年度の学会活動は、『大阪産業大学論集』『大阪産業大学学会報』の発行、出版助成、見学会、講演会などについて、ほぼ当初の計画通り実施できました。次年度につきましても、計画通り実施できることを願っております。

最後になってしまいましたが、今年度の学会活動を支えていただいた常任委員の先生方、とくにチーフ会メンバーである編集委員長の佐藤彰彦先生(経営学部)、企画委員長の笹岡敬先生(デザイン工学部)、法務委員長の齋藤立滋先生(経済学部)、財務委員長の塩見剛一先生(全学教育機構)、広報委員長の伊藤一也先生(工学部)、さらに幹事の産業研究所事務室の伊藤治尚事務長、学会事務局の松村泰子さん、榎谷准子さんのご協力とご尽力に深く感謝いたします。

(国際学部 教授)

令和5年度 学会活動報告

【評議員会】

第1回評議員会 (オンライン開催)	6月20日	議題①令和5年度学会行事予定について ②令和4年度会計報告 ③令和4年度会計監査委員報告 ④令和5年度予算(案)について ⑤規程改正(案)について ⑥令和5年度各委員会の課題 ⑦学会予算縮小への取組み(案)について ⑧その他
第2回評議員会 (オンライン開催)	3月21日	議題①令和5年度活動報告 ②令和6年度チーフ会人事について ③令和6年度活動方針について ④会則・規程集改正(案)について ⑤令和6年度学会予算(案)について ⑥令和6年度行事予定表について ⑦その他

【常任委員会】

新旧常任委員会	3月5日	議題①規程改正について ②周年記念事業予算申し送りについて ③令和6年度各委員会の役割分担と仕事内容(内規)について ④評議委員会について
---------	------	--

【出版助成審査委員会】

出版助成審査委員会 (オンライン開催)	9月19日	令和5年度大阪産業大学学会 学術研究書出版助成申請に関する審査
------------------------	-------	------------------------------------

【会計監査】

5月15日	令和4年度外部会計監査
6月 2日	令和4年度内部会計監査
11月16日	令和5年度外部中間会計監査

【チーフ会】

第1回チーフ会	4月18日 オンライン開催	第7回チーフ会	11月21日 オンライン開催
第2回チーフ会	5月23日 オンライン開催	第8回チーフ会	12月19日 オンライン開催
第3回チーフ会	6月 6日 オンライン開催	第9回チーフ会	1月23日 オンライン開催
第4回チーフ会	7月18日 オンライン開催	第10回チーフ会	2月20日 オンライン開催
第5回チーフ会	9月19日 オンライン開催	第11回チーフ会	3月 5日 オンライン開催
第6回チーフ会	10月17日 オンライン開催		

【編集委員会】

第1回編集委員会	4月18日 オンライン開催	第6回編集委員会	10月17日 オンライン開催
第2回編集委員会	5月23日 オンライン開催	第7回編集委員会	11月21日 オンライン開催
第3回編集委員会	休会	第8回編集委員会	1月23日 オンライン開催
第4回編集委員会	7月18日 オンライン開催	第9回編集委員会	2月13～20日 メール審議
第5回編集委員会	9月19日 オンライン開催		

【令和5年度発行論集・学会報】

種別	分野	巻号数	備考
論集	経営論集	25巻1号(退職記念号)、25巻3号	年3回 原稿募集
	経済論集	25巻1号、25巻3号	年3回 原稿募集
	人文・社会科学編	49、50、51	年3回 原稿募集
	自然科学編	134	年1回 原稿募集
	人間環境論集	23	年1回 原稿募集
学会報		59	年1回 発行

【企画委員会】

第1回企画委員会	4月18日 ハイブリッド開催	第6回企画委員会	10月17日 ハイブリッド開催
第2回企画委員会	5月23日 ハイブリッド開催	第7回企画委員会	11月21日 ハイブリッド開催
第3回企画委員会	休会	第8回企画委員会	1月23日 ハイブリッド開催
第4回企画委員会	7月18日 ハイブリッド開催	第9回企画委員会	2月13～20日 メール審議
第5回企画委員会	9月19日 ハイブリッド開催		

【企画事業】

◆学会コンテスト

第24回 ふんかくコンテスト

第8回 写真・イラストコンテスト

第6回 見学会プランニングコンテスト

◆見学会プランニングコンテスト優秀賞プラン 愛知 交通産業見学会 9月6日

トヨタ博物館とフライトオブドリームスの見学

◆第18回 鈴鹿安全運転研修 9月13日

鈴鹿サーキット交通教育センター研修

◆第2回 関西国際空港見学会 9月20日

海上保安庁・大阪税関の見学

◆講演会 カトウヨシオ氏講演会「カトウヨシオのデザインのココロ」商品開発 成功と失敗の間 10月31日

◆第8回 芸術鑑賞巡り(和歌山) 11月3日

和歌山県立近代美術館と和歌山城の見学

◆淡路 減災・防災体験会 11月6日

北淡震災記念公園と淡路夢舞台の見学

<後援>

◆活動への助成

2月 8日～ 2月 9日 経営学部経営学科 学外見学会～アパレル商品について学ぶ～への助成

2月 9日～ 2月12日 デザイン工学部 建築・環境デザイン学科 優秀卒業研究展 修士研究展2024への助成

3月12日～ 3月17日 デザイン工学部 建築・環境デザイン学科 展覧会「アーキディスコ」への助成

◆令和5年度 海外語学研修および海外留学をした学生への助成

◆卒業論文集等の発行援助

◆学生表彰

【広報】

適時 webサイト更新・改修

【法務】

規程改正の検討

【財務】

毎月の学会会計処理(事務局)後に伝票の確認および預金通帳残高との照合(本会計)

【大阪産業大学学会会員数一覧】

(人)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学生会員(院生)	106	103	113	119
// (大学生)	7,889	7,630	7,423	7,135
正 会 員(専任教員)	207	208	212	208
特別会員	1	1	2	2
準 会 員(非常勤・卒業生)	26	26	22	22
名誉会員	14	13	13	11
賛助会員	3	3	4	6
計	8,246	7,984	7,789	7,503

12月末現在の会員数

令和4年度 学会会計報告 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

令和4年度 財務委員長 塩見 剛一

令和4年度における大阪産業大学学会の収支決算を、下掲の表のとおりご報告いたします。

収入の部では、前年度に比べて収入小計が約17万円の減少となりました。減少の理由は、学生総数の微減により、学会費(学生)が約35万円の減少となったことが主な要因です。現在は学生数の変動に合わせ、収入に見合った規模になるよう中長期的な予算縮小に取り組んでおり、令和5年度は学会報のデジタル化や、正会員(教員)に対する海外留学費補助金の補助を削除するなどの規程改正を検討しています。

一方で、学会収入の中核を学生会員の学会費が占めていることから、学生会員への会費還元維持を図っています。支出の各科目を収入(前年度繰越金を除く)で割った学会費支出割合と比較すると、学生会員に対する還元率は令和3年度の約31.3%に対し、令和4年度は約37.8%と6ポイント以上増加しています。

支出の部では、前年度(令和3年度)に比べて支出小計が約208万円の減少となりました。減少の要因として、前年度の論集発行費の一時的な増加からの回復がありま

す。令和2年度予算として計上していた論集発行費が、論集発行の遅れにより令和3年度にずれ込んだことが、前年度の論集発行費の一時的な増加の原因です。そのため、本会計報告の令和4年度は平常どおりの論集発行回数となりましたので、令和3年度と比較して論集発行費は約323万円の減額となりました。

また、学会イベントの見学会や学会主催の講演会を前年度以上の規模で開催することができましたため、講演会費が前年度に比べて約20万円の増加、イベント費は約82万円の増加、諸活動費は約8万円の増加となりました。また、海外留学補助金は前年度、コロナの影響でオンライン化や留学の見合わせ等により大幅に減少しておりましたが、令和4年度は留学の状況にやや緩和が見られたことで約23万円の増加となりました。

令和4年度におきましても、各種見学会や学会コンテストなどのイベント、出版助成、海外留学補助など、多岐にわたる助成を積極的に行いました。今後も、会員の皆様に少しでも有益な会費還元ができますよう、一層努めてまいります。

【収入の部】

(単位：円)

科 目	本年度予算額	本年度決算額	増 減
学会費(学生)	17,016,000	17,367,600	351,600
〃 (正・準)	1,130,000	1,164,000	34,000
受取利息	200	397	197
雑収入	164,400	237,230	72,830
(小 計)	18,310,600	18,769,227	458,627
前年度繰越金	43,626,919	43,626,919	0
合 計	61,937,519	62,396,146	458,627

【支出の部】

(単位：円)

科 目	本年度予算額	本年度決算額	増 減
論集発行費	4,500,000	3,222,376	△ 1,277,624
学会報発行費	1,500,000	1,128,345	△ 371,655
講演会費	800,000	780,935	△ 19,065
イベント費	2,600,000	2,199,588	△ 400,412
諸活動費	1,000,000	553,000	△ 447,000
海外留学費補助金	1,000,000	410,710	△ 589,290
出版助成	8,500,000	5,436,930	△ 3,063,070
ウェブサイト保守点検費	280,000	294,811	14,811
人件費	5,900,000	5,875,431	△ 24,569
渉外慶弔費	200,000	60,000	△ 140,000
印刷製本費	200,000	178,795	△ 21,205
通信輸送費	100,000	79,880	△ 20,120
学生表彰費	1,800,000	1,606,384	△ 193,616
法定福利費	950,000	955,500	5,500
福利厚生費	15,000	10,979	△ 4,021
支払手数料	250,000	238,986	△ 11,014
その他	100,000	37,038	△ 62,962
(小 計)	29,695,000	23,069,688	△ 6,625,312
周年記念事業繰入金	1,500,000	1,500,000	0
次年度繰越金	30,742,519	37,826,458	7,083,939
合 計	61,937,519	62,396,146	458,627

編集後記

大阪産業大学学会報 第59号のテーマは『AI時代における大学教育』です。

現在、私たちはインターネット、テレビ、新聞などのマスコミ媒体でAIという言葉のみかけない日は、ほとんどありません。この原稿を執筆中の2023年11月18日(土)の日本経済新聞夕刊でも「生成AI」の「Chat GPT」を生み出したアメリカの新興企業である「オープンAI社」のCEOの去就が報じられています。

AIは「Artificial Intelligence(人工知能)」の略語です。そして、上記の「オープンAI社」による2022年11月の「Chat GPT」の公開により、AIは従来のものでさらに進化した「生成AI」が世に広く浸透してきました。

こうしたAIの普及が現在進行形で進むなか、本号では学生と教員という異なる立場、所属学部 of 学問分野といった異なる分野から『AI時代における大学教育』について寄稿していただきました。その内容は、最近のAIがどのような特徴を持ち、それが大学教育にいかなる影響を与える(今後、与えていく)のか、そのメリットとデメリットは何かなど、寄稿者による立場や分野の違いはあれども、今後の大学教育を考える上で非常に示唆に富むご意見でした。

また、2023年は日本において新型コロナウイルス感染症の位置づけが変わり、コロナ感染症との関わり方が大きく変わった年でした。即ち、これまでは「新型インフルエンザ等感染症(いわゆる2類相当)」とされていたものが、2023年5月8日以降「5類感染症」となり(厚生労働省ホームページ参照)、コロナ前とほぼ同水準の行動ができるようになりました。これにより語学研修や留学も再開されることとなり、それまでに行われてきたものと合わせて学生と教員の留学記が豊富に書かれています。そして、このほかにも学会主催見学会、コンテスト報告、講演会報告、学術研究書出版助成の概要などが掲載されています。

是非ご一読いただき、会員の皆さまのお立場や分野において、ご活用いただけると幸いです。最後になりましたが、本号に寄稿いただいた皆さま、編集、発刊にご協力いただいた編集委員の方々、とくに精力的に編集の任にあたってくださいました学会事務局に深く感謝を申し上げます。

(令和5年度編集委員長：佐藤 彰彦)

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced or transmitted, in any form or by any means, without prior permission in writing from the publisher.

大阪産業大学学会報 第59号 非売品

発行日 2024(令和6)年3月5日
発行 大阪産業大学学会
〒574-0013
大阪府大東市中垣内3丁目1-1
TEL (072) 875-3001 (大代)
FAX (072) 875-6551
印刷 友野印刷株式会社
〒700-0035
岡山市北区高柳西町1-23
TEL (086) 255-1101
FAX (086) 253-2965

Academic Society
of Osaka Sangyo University

